

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成30年6月

明石工業高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
 - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（ページや行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。この場合は、自己評価書「根拠資料編」にリンクを貼ったウェブサイト公表資料の一覧を添付すること。
 - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字以下を目安とすること。なお、「・・・場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

(法)学校教育法、(施)学校教育法施行規則、(設)高等専門学校設置基準

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	明石工業高等専門学校
2. 所在地	兵庫県明石市魚住町西岡679番の3
3. 学科等の構成	準学士課程：機械工学科、電気情報工学科、都市システム工学科、建築学科 専攻科課程：機械・電子システム工学専攻、建築・都市システム工学専攻
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：機械・電子システム工学専攻、建築・都市システム工学専攻） JABEE認定プログラム（専攻名：機械・電子システム工学専攻、建築・都市システム工学専攻） その他（ ）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：899人 教員数：専任教員 66人 助手数：0人
(2) 特徴	
<p>明石工業高等専門学校は、高専制度創設第一期校として昭和37年4月に設置された。開校時は、機械工学科、電気工学科、土木工学科の3学科であったが、昭和41年4月には建築学科が増設し、4学科体制となった。以後、時代の要請に応えるべく、平成6年4月には土木工学科が都市システム工学科へ、平成11年4月には電気工学科が電気情報工学科（4年次以降コース制）に改組した。また、平成8年4月に専攻科の機械・電子システム工学専攻、建築・都市システム工学専攻を設置した。</p> <p>本校は、「人間味豊かで、創造力があり、いかなる困難にも屈しない強固な意志と厳しい試練にも耐えうる強健な身体とを持ち、豊かな教養があり、工学についての基礎学力が十分で、実践的技術に優れた人物を養成する」という教育方針の下に、多数の実践的技術者を輩出してきた。専攻科設置を機に、さらに「複眼的視野」を持ち「多次元的システム思考」のできる技術者を育成すべく新たな教育サービスを提供している。そのために、他学科科目の履修、単位互換協定に基づく他大学科目の履修を認めている。また、TOEICスコアに基づく単位認定のほか、資格取得や検定の成績に基づく単位認定を実施している。</p> <p>平成14年に神戸大学工学部と相互履修に関する協定締結以降、現在8大学（国立7大学、県立大1）と教育研究に関する相互協力の体制を整えている。</p> <p>平成16年にFD委員会を設け、教員・学生の自己点検・評価や授業公開などを行うようになった。また、外部有識者の意見を学校運営に反映させるため、平成10年から設置されていた懇話会の活動を引き継ぐかたちで、平成15年に外部評価委員会を組織した。平成18年度には有識者懇談会に変更して開催し、平成20年度以降毎年テーマを設定して開催している。さらに、平成17年度、22年度及び28年度には将来計画・自己点検等委員会の下に認証評価部会を設置し、自己点検・評価報告書を刊行した。</p> <p>平成15年度には、「人との関わりや自然や社会との共生」を掲げた「共生システム工学」教育プログラムが、兵庫県内の高等教育機関として初めてJABEE認定プログラム（工学（融合複合・新領域）関連分野）として、国際的な基準を満たす教育であることが認められた。また、JABEE認定を機に、教育目的及び学習・教育到達目標等を見直し、それにあわせて教育課程の再編を行った。</p> <p>卒業生の進路は、就職と大学等への進学である。求人倍率は常に高率を維持し、就職希望者の就職率は約97%である。大学へ編入する卒業生は約70%（本校専攻科進学を含む）であり、工学部、理学部及び農学部といった自然科学系学部だけでなく、経済学、法学といった社会科学系学部へも編入している。専攻科修了生が大学院へ進学する割合は、ここ数年40～60%となっており、進学率は100%である。</p>	

施設については、教室の AV 化や学内 LAN の構築等の先進技術を利用した施設を整備している。平成 14 年には、教育・研究全般に関する技術的支援と専門的業務を円滑・効率的に行うために技術教育支援センターを設置した。福利厚生施設の設置では、平成 14 年に学生相談室を設置し、平成 17 年には女子寮を設置した。また、創立 50 周年を迎え、平成 24 年に正門、平成 25 年に学生寮 C 寮の改修を終え、新たに平成 26 年に情報メディアセンター、平成 27 年に協同学習センター、グローバルエデュケーションオフィス及び国際交流プラザを完成した。

平成 16 年度から、独立行政法人国立高等専門学校機構法により独立行政法人化された。本校も教育の質を高めて魅力ある学校づくりをし、優れた人材を輩出しつづける努力が今後ますます必要であり、地域と連携して、社会に貢献できる学校づくりをすることが重要な課題となっている。このような環境の中で、平成 24 年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業「近畿地区 7 高専連携による防災技能を有した技術者教育の構築」や平成 26 年度大学教育再生加速プログラム(AP)「テーマ I (アクティブ・ラーニング)」が採択され、従来の学科の枠組みを超えた教育カリキュラムの新設がなされると共に、外部資金による教育プログラム事業も行われている。加えて、平成 25 年には国立高専のアクティブラーニング推進モデル校の指定を受け、学生の主体性・能動性を高める授業改善を進め、平成 26 年には同じく国立高専のグローバル高専モデル校に指定され、世界中の多様な人々と協働できる資質を身に付けるための取組を行っている。

産学官の連携事業としては、平成 9 年に産学連携強化を目指して地域共同教育研究センター（平成 12 年にテクノセンターと改称）を設置し、学内外で定期的に講演会を開催し、技術者の資質向上や地域の企業・住民との交流を深める活動を行っている。平成 19 年にみなの銀行、明石市と連携協力に関する協定を締結し、また、平成 21 年度には明石市産業振興財団とも協定を締結、以後加西市(H23)、高砂市(H29)と締結したほか、4 法人と協定している。さらに、平成 25 年度には明石高専産学連携交流会が設立され、本校と地域企業・自治体等の地域産業との連携・交流を深めている。

国際交流関係では、平成 19 年度に国際交流委員会を設け、国際交流センターを経て平成 27 年から組織整備を行いグローバルエデュケーションセンターを設置、国際交流活動の推進に取り組んでいる。従来からのオークランド大学語学研修に加えて、カリフォルニア大学アーバイン校のほか、積極的に多種多様な海外研修への参加を呼びかけ、平成 29 年度は 171 名の本校学生が海外研修に参加した一方、114 名の短期留学生を受け入れ、年間を通して常に学内に短期留学生が滞在している状況になりつつある。また、海外大学への編入学を開拓し、平成 28 年度にオーストラリアのクィーンズランド工科大学と、平成 29 年にイギリスのサウサンプトン大学、オーストラリアのモナッシュ大学と編入学の協定を締結した。

II 目的

1) 本校の使命

学校教育法第 115 条、高等専門学校設置基準第 2 条及び独立行政法人国立高等専門学校機構法第 3 条に基づいて、本校の使命を次のように定めている。

本校は、教育基本法にのっとり、学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的に、高等教育機関として社会に対して、三つの使命を担う。

(1) 教育

人間味豊かで、創造力があり、いかなる困難にも屈しない強固な意志と厳しい試練にも耐えうる強健な身体とを持ち、豊かな教養があり、工学についての基礎学力が十分で、実践的技術に優れた人物を養成する。

(2) 研究

学術研究の発展に寄与するため、地域の企業、自治体や民間組織などと共同研究を進め、研究活動の成果を教育に還元する。

(3) 地域連携

地域に根ざした高専という視点から、技術交流や地域の発展に寄与する活動を通じて、教職員・学生参画により地域社会との連携を図る。

2) 教育目的

教育目的として、次のような前文と 4 項目を定めている。

本校では豊かな教養と感性を育てると共に、科学技術の進歩に対応した専門の知識・技術を教授し、以下の能力を備えた技術者を養成することを教育目的にしている。

- (1) 豊かな人間性 (2) 柔軟な問題解決能力 (3) 実践的な技術力 (4) 豊かな国際性と指導力

3) 学習・教育到達目標

本校では、上記の教育目的をより具体化するために、以下に示す 8 項目の学習・教育到達目標を設定している。

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| (A) 共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身 | (B) 国際性と指導力 |
| (C) 技術者倫理 | (D) 基礎学力と自主的・継続的学習能力 |
| (E) コミュニケーション能力 | (F) 柔軟かつ創造的な設計能力 |
| (G) 実践的な問題解決能力 | (H) 多次元的なシステム思考 |

準学士課程では、上記 8 項目の学習・教育目標を基本として、一般科目及び各学科それぞれの特徴を反映させた目標を定めている。

専攻科課程では、大学工学教育による技術者とは異なった視点を持つ「最も得意とする専門技術の知識・能力を持ちながら、関連する他の専門技術や一般教養の知識・能力を複合した複眼的視野に基づき、人との関わりや自然や社会との共生に配慮した多次元的なシステム思考のできる技術者」の養成を目的とし、基本 8 項目の下に詳細な目標を定めている。

4) 人材養成に関する目的

「大学設置基準等の一部を改正する省令」の施行に伴い、平成 20 年に、各学科・各専攻における人材の養成に関する目的を教育上の目的として学則に定めた。

準学士課程

【機械工学科】

機械をはじめとする「もの」を対象に、その開発、設計、製造など広範囲な開発・技術部門において十分に対応できる能力を育成するため、機械系の応用力学、材料、生産技術や制御などに関する基礎教育を重点的に行う。さらに、機械工学実験、設計製図、工作実習、プログラミングなどの実習教育をきめ細かく行うとともに、応用展開科目や開発研究を適切に教授することにより、新しい技術発展にも柔軟に対応できる創造性豊かな実践的技術者の養成を目的とする。

【電気情報工学科】

高度情報社会を支える重要な要素である電気情報関連分野において、広範化・高度化する技術に対応するために必要な電気、電子、情報、通信分野の基礎教育を第1学年から第3学年において行う。さらに、第4学年及び第5学年では電気電子工学コースにおいてエネルギー工学、制御工学、通信工学、電子物性工学、また情報工学コースにおいて情報ネットワーク、情報理論、プログラミング、ソフトウェア工学等の応用科目を教授する。これらの教育により電気情報関連分野の全般に渡る基礎的能力を持ち、かつ電気電子あるいは情報分野に関する高度な能力を持つ幅広い分野に対応できる技術者の養成を目的とする。

【都市システム工学科】

国土や地域の開発、防災、交通網・インフラ整備、環境保全など、人間の豊かな社会生活を支える都市基盤を創造するのに必要な測量学、構造力学、水工学、地盤工学、計画学、コンピュータ技術、材料工学、防災工学、環境工学分野の基礎理論を教授するとともに、工学実験、コミュニケーションスキル、建設マネジメントなどの実践的なエンジニアリングデザイン教育を行うことにより、高度な専門基礎学力と自主的問題解決能力を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな技術者の育成を目的とする。

【建築学科】

人間社会の基盤である住宅や建築施設を歴史、文化、自然環境や多様な社会との調和のうちに創造するために、計画系、構造系、環境系の専門分野に関する基礎知識として建築計画、建築史、構造力学、建築工学実験、環境工学や情報処理科目などを教授する。さらに、これらを総合する科目として建築設計演習や建築構造演習などがある。基礎と応用の教育を通して工学的基礎知識と幅広い教養を併せ持ち、芸術的要素と技術的要素を統合する豊かな想像力と総合力を持つ人材の育成を目的とする。

専攻科課程

【機械・電子システム工学専攻】

機械及び電子システムの設計開発に必要な応用工学系基幹科目や、より高度な工学知識を教授・研究し、併せて応用的な実技・実習を課すことにより、倫理観とコミュニケーション能力を備え、先端的な生産システムや工業製品の創造開発に貢献できる技術者の養成を目的とする。

【建築・都市システム工学専攻】

都市環境及び建築環境を合理的に計画、設計、構築するのに必要な計画学、構造力学、環境工学の分野を教授・研究し、併せて応用的な実技・実習を課すことにより、倫理観、コミュニケーション能力を備え、創造力豊かなエンジニアリングデザイン能力を持ったより高度な専門技術者の養成を目的とする。

基準 1 教育の内部質保証システム

<p>評価の視点</p> <p>【重点評価項目】</p> <p>1-1 教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第 109 条第 1 項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。</p>	
<p>【重点評価項目】</p> <p>観点 1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 教育の活動を中心とした学校の教育研究活動の総合的な状況についての自己点検・評価の実施方針、実施体制、実施項目を分析するための観点であり、重点評価項目として位置付けている。（改善への取組については 1-1-④ で分析する。）</p> <p>○ 定期的に行うということは、7 年以内ごとに実施する大学改革支援・学位授与機構（以下、「機構」という。）の機関別認証評価に対応した自己点検・評価以外に、計画的にモニタリング※や自己点検・評価を実施していることについて分析すること。</p> <p>※ 「モニタリング」として、教育プログラムの実施者がプログラムの現状について、定量的及び定性的なデータや情報を定期的かつ体系的に把握・追跡し、継続的に情報共有を行う作業をいう。</p> <p>○ 実施方針とは、趣旨、実施時期、実施方法、評価結果の外部検証等が定められている学校内の規定を想定している。</p> <p>○ 実施体制には、委員会や担当部署のほか、自己点検・評価における責任の所在を明記していること。なお、実施体制の「組織図」等があれば提示すること。</p> <p>○ 自己点検・評価の基準・項目には、機構の高等専門学校評価基準を活用することや、必要に応じて独自の評価の項目を設定している場合も想定される。</p> <p>○ 実施体制、評価の基準・項目等は、実施方針の中で一体的に策定している場合も想定される。</p>	
関係法令	(法)第 109 条 (施)第 166 条 (設)第 2 条
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針を定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇実施の方針が明示されている規程等</p> <p>資料 1-1-①-(1)-1、P1「明石工業高等専門学校における自己点検・評価の実施方針」（制定予定）</p>
<p>(2) (1)の方針において、自己点検・評価の実施体制（委員会等）を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇実施体制等がわかる資料（組織構成図、関連規程等）</p> <p>資料 1-1-①-(2)-1、P3「自己点検・評価の実施体制が分かる規程」</p>

<p>(3) (1)の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の基準・項目等を設定しているか。</p> <p>■設定している</p> <p>□設定していない</p>	<p>◇自己点検・評価の基準・項目等がわかる資料（関連規程等）</p> <p>従来、高等専門学校機関別認証評価の基準及び観点を考慮して、本校の将来計画・自己評価等委員会の作業部会において項目を決めてきた。直近の平成29年3月発行の自己点検・評価報告書では、目次の項目が該当する。基準については、本校としては、明確に定めてこなかった。次回以降は、新たに制定する実施方針に基づき、基準・項目を定める。</p> <p>資料1-1-①-(3)-1、P4「自己点検・評価の項目を決めた委員会議事要録」</p> <p>資料1-1-①-(3)-2、P5「自己点検・評価の基準・項目等がわかる資料」</p>
<p>【重点評価項目】</p>	
<p>観点1-1-② 内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。</p>	
<p>【留意点】</p>	
<p>○ 根拠となるデータや資料等とは、教育の状況について自己点検・評価を行うに当たり必要な教育活動に関する基礎的な資料のことで、本評価書の右欄に明示された各種資料を想定している。自己点検・評価に活用できるように体系的に整理しているかを分析すること。より体系的に実施するため、データブック等の策定や、IR（インスティテューショナル・リサーチ）活動として実施している場合も考えられる。</p> <p>○ 定期的に行うということは、7年以内ごとに実施する大学改革支援・学位授与機構（以下、「機構」という。）の機関別認証評価に対応した自己点検・評価以外に、計画的にモニタリング※や自己点検・評価を実施していることについて分析すること。</p> <p>※ 「モニタリング」として、教育プログラムの実施者がプログラムの現状について、定量的及び定性的なデータや情報を定期的かつ体系的に把握・追跡し、継続的に情報共有を行う作業をいう。（1-1-①の留意点の再掲。）</p> <p>○ 設定した自己点検・評価の基準・項目に基づいて、点検（分析）・評価されていること。（1-1-①(3)と関連。）</p>	
<p>関係法令 (法)第109条 (施)第166条 (設)第2条</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 根拠となるデータや資料等を定期的に収集・蓄積しているか。</p> <p>■収集・蓄積している</p> <p>□収集・蓄積していない</p>	<p>◇収集・蓄積状況がわかる資料</p> <p>資料1-1-②-(1)-1、P10「根拠となるデータや資料の収集・蓄積状況がわかる資料」</p> <p>◇担当組織、責任体制がわかる資料</p> <p>資料1-1-②-(1)-2、P11「データや資料の収集・蓄積の担当組織、責任体制がわかる資料」</p>

<p>(2) 自己点検・評価を定期的に行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 実施している</p> <p><input type="checkbox"/> 実施していない</p>	<p>◇自己点検・評価報告書等、実施状況がわかる資料（何年ごとに実施しているかがわかる資料も含む。）</p> <p>◆何年ごとに実施しているかを明確にしつつ、現在の実施頻度が適切かどうか、データや資料を活用して行われているかについて、資料を基に記述する。</p> <p>資料1-1-②-(2)-1、P12「自己点検・評価報告書等、実施状況がわかる資料」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/guide/evaluation</p> <p>直近の2回は、高等専門学校機関別認証評価の前々年、前年に実施した。次回からは、認証評価の実施時期を考慮して、おおむね7年ごとに、取りまとめを行う。なお、その前提として、基本的に年度単位に、データや資料の分析や点検、そして一定の評価を積み重ねていき、項目ごとに適宜改善に繋げていく。</p>
<p>(3) (2)の結果を公表しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 公表している</p> <p><input type="checkbox"/> 公表していない</p>	<p>◇公表状況がわかる資料(ウェブサイトのアドレスの明示でも可。)</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/guide/evaluation/h28</p>
<p>【重点評価項目】</p> <p>観点1-1-③ 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 学校の構成員及び学外関係者の意見を聴取する方法、内容、実施状況等についての分析を含め、聴取した意見がどのような形で教育の状況に関する自己点検・評価に反映されているか分析すること。</p> <p>○ 特に学外関係者からの意見聴取は、準備等に時間がかかることが想定されるため、計画的な実施が望まれる。</p> <p>○ 「第三者評価」とは、評価対象機関とは独立した第三者組織によって選定された評価者・評価項目等によって行われる評価を指す。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 職員</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 在学生</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 卒業（修了）時の学生</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 保護者</p>	<p>◇各意見聴取の実施状況がわかる資料（実施方法、回数、意見内容の例、アンケート結果集計表等。）</p> <p>資料1-1-②-(1)-1、P10「根拠となるデータや資料の収集・蓄積状況がわかる資料」（再掲）</p> <p>資料1-1-③-(1)-1、P13「教員の意見聴取の実施状況がわかる資料」</p> <p>資料1-1-③-(1)-2、P14「教員・職員の意見内容がわかる資料（授業公開の結果）」</p> <p>資料1-1-③-(1)-3、P15「教員・職員の意見</p>

<p>■就職・進学先関係者</p>	<p>聴取がわかる資料（研究授業の案内）」 資料1-1-③-(1)-4、P16「在学生の意見内容 がわかる資料（授業アンケート集計表）」 資料1-1-③-(1)-5、P17「在学生の意見内容 がわかる資料（学校に対する要望書）」 資料1-1-③-(1)-6、P19「卒業時の学生のア ンケート結果集計表」 資料1-1-③-(1)-7、P23「卒業（修了）から 一定年数後の卒業（修了）生のアンケート結果集計表」 資料1-1-③-(1)-8、P24「保護者の意見内容 がわかる資料（授業公開の結果）」 資料1-1-③-(1)-9、P26「就職・進学先関係者 のアンケート結果集計表」 資料1-1-③-(1)-10、P27「保護者及び就職・進 学先関係者の意見内容がわかる資料」 https://www.akashi.ac.jp/blog/archives/11495 ◇自己点検・評価結果報告書等の該当箇所 資料1-1-③-(1)-11、P28「自己点検・評価報 告書（平成29年3月）p.72～107」 http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2017/05/1c525ecd2553435e7819085efd8a11f2.pdf</p>
<p>(2) 自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評 価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っ ているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価 ■学生による授業評価 ■学生による教育・学習の達成度に関する評価 （進級時等、卒業（修了）前の評価） ■学生による満足度評価 （進級時等、卒業（修了）前の評価） □その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 ■卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関 する評価 ■卒業（修了）時の学生による満足度評価 □その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 ■卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する 評価</p>	<p>◇各評価結果等を踏まえて自己点検・評価が行われている ことを示す報告書等の該当箇所 資料1-1-③-(1)-11、P28「自己点検・評価報 告書（平成29年3月）p.72～107」（再掲） http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2017/05/1c525ecd2553435e7819085efd8a11f2.pdf 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価 資料1-1-③-(2)-1、P64「学習環境に関する 評価を踏まえていることがわかる資料」 ■学生による授業評価 資料1-1-③-(1)-4、P16「在学生の意見内容 がわかる資料（授業アンケート集計表）」中の「担当教員 からの講評」にあるとおり、学生のアンケート（授業評価） を踏まえていることがわかる資料として再掲 ■学生による教育・学習の達成度に関する評価 資料1-1-③-(2)-2、P65「学生による教育・ 学習の達成度に関する評価を踏まえていることがわかる 資料」</p>

<p>■卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価</p> <p>□その他</p> <p>【外部評価】</p> <p>■外部有識者の検証</p> <p>■教育活動に関する第三者評価 (機関別認証評価、JABEE 等。)</p> <p>□設置計画履行状況調査</p> <p>□その他</p>	<p>■学生による満足度評価</p> <p>資料1-1-③-(2)-3、P67「学生による満足度評価を踏まえていることがわかる資料」(アンケート項目のみ、集計結果は必要に応じて訪問調査時に提示)</p> <p>【卒業（修了）時の意見聴取】</p> <p>■卒業（修了）後の学生による教育・学習の達成度に関する評価及び満足度評価</p> <p>資料1-1-③-(1)-6、P19「卒業時の学生のアンケート結果集計表」(再掲)</p> <p>【卒業（修了）後の意見聴取】</p> <p>■卒業（修了）後の学生及び就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価</p> <p>資料1-1-③-(1)-7、P23「卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生のアンケート結果集計表」(再掲)</p> <p>■就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価</p> <p>資料1-1-③-(1)-10、P27「保護者及び就職・進学先関係者の意見内容がわかる資料」</p> <p>https://www.akashi.ac.jp/blog/archives/11495</p> <p>【外部評価】</p> <p>■外部有識者の検証</p> <p>資料1-1-③-(2)-4、P69「外部有識者懇談会実施一覧表」</p> <p>資料1-1-③-(2)-5、P70「外部有識者の検証がわかる資料(有識者懇談会)」</p> <p>資料1-1-③-(1)-10、P27「保護者及び就職・進学先関係者の意見内容がわかる資料」(再掲)(平成27年6月14日本校学生・教職員及び学外者60名で「明石高専の可能性」について6時間の意見交換を行った。)</p> <p>https://www.akashi.ac.jp/blog/archives/11495</p> <p>■教育活動に関する第三者評価</p> <p>資料1-1-③-(2)-6、P71「教育活動に関する第三者評価がわかる資料」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/guide/evaluation</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、当該評価の内容を記述するとともに、上記◇と同様に該当箇所を明示すること。</p>
<p>【重点評価項目】</p>	

<p>観点1-1-④ 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 改善・向上のための組織体制には、委員会や担当部署のほか、改善・向上の取組のための責任の所在が明確になっていること。組織図等があれば提示すること。</p> <p>1-1-①-(2)と同じ組織体制を充てる場合であっても、自己点検・評価の実施と改善・向上の取組の両方の役割をそれぞれ明確に規程等で整理できているかを分析すること。</p> <p>○ 第三者評価等とは、機構が実施する機関別認証評価や、JABEE（日本技術者教育認定機構）によるJABEE認定プログラムの認定、機構が実施する特例適用専攻科の認定等のほか、第三者評価ではない、自己点検・評価の外部有識者による検証を含み、外部者が検証・評価した結果等の全てを想定しており、そこで指摘された改善事項等への対応を事例として想定している。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような体制が整備されているか。</p> <p>■整備されている</p> <p>□整備されていない</p>	<p>◇実施体制がわかる資料（組織相互関連図、関連規程、議事録、活動記録等）</p> <p>資料1-1-①-(1)-1、P1「明石工業高等専門学校における自己点検・評価の実施方針」（再掲）</p> <p>資料1-1-①-(2)-1、P3「実施体制がわかる規程」（再掲）</p> <p>資料1-1-④-(1)-1、P73「実施体制がわかる資料（アクティブラーニングセンター規則、FD部門要項）」</p> <p>資料1-1-④-(1)-2、P75「実施体制がわかる資料（教務委員会規程）」</p> <p>資料1-1-④-(1)-3、P76「実施体制がわかる資料（専攻科・JABEE委員会規程）」</p> <p>資料1-1-④-(1)-4、P77「実施体制がわかる資料（教育研究活動評価等委員会規程）」</p> <p>資料1-1-④-(1)-5、P78「実施体制がわかる資料（外部評価実施要項）」</p>
<p>(2) 前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。</p> <p>■対応している</p> <p>□対応していない</p> <p>□指摘を受けていない</p>	<p>◇対応状況がわかる資料</p> <p>資料1-1-④-(2)-1、P79「前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項がわかる資料」</p> <p>http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou201203/kousen/no6_1_3_akashi_k201203.pdf</p> <p>資料1-1-④-(2)-2、P80「改善を要する点」</p>

	として指摘された事項への対応がわかる資料」
<p>(3) (2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。</p> <p>■改善に向けた取組を行っている</p> <p>□改善に向けた取組を行っていない</p>	<p>◇自己点検・評価結果報告書や第三者評価等の該当箇所 資料1-1-④-(3)-1、P82「平成28年度自己点検・評価報告書」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/guide/evaluation/h28</p> <p>◇評価結果を受けた改善の取組がわかる資料 資料1-1-④-(3)-2、P83「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料(目的・目標)」</p> <p>資料1-1-④-(3)-3、P85「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料(教育体制と教員及び支援職員)」</p> <p>資料1-1-④-(3)-4、P86「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料(教育内容と方法)」</p> <p>資料1-1-④-(3)-5、P87「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料(教育の成果及び改善システム)」</p> <p>資料1-1-④-(3)-6、P88「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料(学生の受入れ)」</p> <p>資料1-1-④-(3)-7、P90「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料(学生支援)」</p> <p>資料1-1-④-(3)-8、P92「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料(研究状況及び学外への教育サービス)」</p> <p>資料1-1-④-(3)-9、P94「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料(管理運営等)」</p>
<p>1-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点</p> <p>1-2 準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)(以下「三つの方針」という。)が学校の目的を踏まえて定められていること。</p>	
<p>(準学士課程)</p> <p>観点1-2-① 準学士課程の卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成28年3月31日に決定されたガイドラインのことをいう。</p> <p>○ 「卒業の認定に関する方針」(ディプロマ・ポリシー)については、ガイドラインの3ページ上段の基本的な考え方や、同5ページ下半分の三つのポリシー相互の関係、同6ページのディプロマ・ポリシーについて等、ガイドラ</p>	

<p>インの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。</p> <p>○ 教育する立場からみた教えるべき内容ではなく、教育を受ける側（＝学習者＝学生）の立場に立って「何を身に付け、何ができるようになったか」という学習の成果が明確にわかる、具体的な内容となっていることを分析すること。</p> <p>○ 学校教育法施行規則第172条の2第1項第1号の規定により学校の目的を、高等専門学校設置基準第3条の規定により学科ごとの目的を、それぞれ定めることが義務付けられており（本評価書のⅡ目的に記載するもの。）、それぞれの目的と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、内容的に齟齬がないなど整合性を有していることを分析すること。</p> <p>○ 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体で一つのポリシーを定めることや、学科ごとに定めることが考えられるところであり、学校・学科の目的や教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）との整合性を踏まえて、学校ごとに策定単位を明確にすることが求められる。</p>	
関係法令	<p>(法)第117条 (施)第165条の2 (設)第17条第3～6項、第17条の2、第17条の3、第18条、第19条、第20条</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>□準学士課程全体として定めている</p> <p>■学科ごとに定めている</p> <p>□その他</p>	<p>◇策定した卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>資料1-2-①-(1)-1、P97「策定した卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/guide/policy</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>
<p>(2) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）と整合性を有しているか。</p> <p>■整合性を有している</p> <p>□整合性を有していない</p>	
<p>(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。</p> <p>■示している</p> <p>□示していない</p>	
<p>観点1-2-② 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、卒業の認定に</p>	

<p>関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成 28 年 3 月 31 日に決定されたガイドラインのことをいう。</p> <p>○ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）については、ガイドラインの 3 ページ上段の基本的な考え方や、同 5 ページ下半分の三つのポリシー相互の関係、同 6 ページカリキュラム・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。</p> <p>○ 特に、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は学校教育法施行規則第 165 条の 2 第 2 項において、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有して定めることが求められていることから、両ポリシーの内容が整合的であることを分析すること。</p> <p>○ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体又は学科ごとに定めることが想定されるところであり、学校・学科の目的や卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を踏まえて、学校ごとに策定単位を明確にすることが求められる。（卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と策定単位が一致していることが原則であると想定されるが、各高等専門学校の判断で策定単位を一致させていないことも想定されることから、整合性を分析する際には、形式的に留まらず内容的整合性を分析することが求められる。）</p> <p>○ （3）の選択肢のうち、「その他」以外のものについては、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に必ず含むものとして想定している。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(施)第 165 条の 2 (設)第 15 条、第 16 条、第 17 条 (第 7 項)、第 17 条の 2</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン (平成 28 年 3 月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会)</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>□準学士課程全体として定めている</p> <p>■学科ごとに定めている</p> <p>□その他</p>	<p>◇策定した教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <p>資料 1-2-2-(1)-1、P98「策定した教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)」 http://www.akashi.ac.jp/guide/policy</p>
<p>(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)は、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性を有しているか。</p> <p>■整合性を有している</p> <p>□整合性を有していない</p>	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>
<p>(3) 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)は、どのような内容を含んでいるか。(該</p>	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>

<p>当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>■どのような教育課程を編成するかを示している</p> <p>■どのような教育内容・方法を実施するかを示している</p> <p>■学習成果をどのように評価するかを示している</p> <p>□その他</p>	
<p>観点1-2-③ 準学士課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成28年3月31日に決定されたガイドラインのことをいう。</p> <p>○ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）については、ガイドラインの3ページ上段の基本的な考え方や、同5ページ下半分の三つのポリシー相互の関係、同6ページのアドミッション・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。</p> <p>○ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体で1つのポリシーを定めることが考えられるが、学科ごとに定めることも可能である。</p> <p>○ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」と「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」の両方を定めているかを分析すること。なお、受け入れる学生に求める学習成果として、「学力の3要素」に沿った成果の内容が明示されていることを分析すること。</p> <p>○ 「学力の3要素」とは、1知識・技能、2思考力・判断力・表現力等の能力、3主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度のことである。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第57条、第118条 (施)第165条の2</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン(平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会)</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>□準学士課程全体として定めている</p> <p>■学科ごとに定めている</p> <p>□その他</p>	<p>◇策定した入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)</p> <p>資料1-2-③-(1)-1、P99「策定した入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/guide/policy</p> <p>資料1-2-③-(1)-2、P100「策定した入学者の受入れに関する方針(選抜方針の部分)」</p>
<p>(2) 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)は、学校の目的や学科の目的(本評価書Ⅱに記載したもの)、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえて策定しているか。</p> <p>■目的・方針等を踏まえて策定している</p>	<p>https://www.akashi.ac.jp/mechanical/policy/senbatu</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>

<input type="checkbox"/> 目的・方針等を踏まえて策定していない	
(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 明示している <input type="checkbox"/> 明示していない	
(4) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 明示している <input type="checkbox"/> 明示していない	
(5) 受入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 含まれている <input type="checkbox"/> 含まれていない	
（専攻科課程） 観点1-2-④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	
【留意点】 <input type="checkbox"/> 観点1-2-①の留意点に準ずるものとする。	
関係法令	（法）第119条第2項 （施）第165条の2 （設）第17条第3～6項、第17条の2、第17条の3、第18条、第19条、第20条 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) ガイドライン等を踏まえ、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） <input checked="" type="checkbox"/> 専攻科課程全体として定めている <input type="checkbox"/> 専攻ごとに定めている <input type="checkbox"/> その他	◇策定した修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）がわかる資料 資料1-2-④-（1）-1、P101「策定した修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」 http://www.akashi.ac.jp/advanced/policy
(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、	◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的

<p>「何ができるようになるか」に力点を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的（本評価書Ⅱに記載したもの）と整合性を有しているか。</p> <p>■整合性を有している □整合性を有していない</p>	<p>に記述する。</p>
<p>(3) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。</p> <p>■示している □示していない</p>	
<p>観点 1-2-⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点 1-2-②の留意点に準ずるものとする。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(施)第 165 条の 2 (設)第 15 条、第 16 条、第 17 条 (第 7 項)、第 17 条の 2 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) 及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー) の策定及び運用に関するガイドライン (平成 28 年 3 月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会)</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>□専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他</p>	<p>◇策定した教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）がわかる資料 資料 1-2-⑤- (1) - 1、P102「策定した教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」 http://www.akashi.ac.jp/guide/policy</p>
<p>(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。</p> <p>■整合性を有している □整合性を有していない</p>	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>

<p>(3) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>■どのような教育課程を編成するかを示している</p> <p>■どのような教育内容・方法を実施するかを示している</p> <p>■学習成果をどのように評価するかを示している</p> <p>□その他</p>	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>観点1-2-⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点1-2-③の留意点に準ずるものとする。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第119条第2項(施)第165条の2、第177条</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>□専攻科課程全体として定めている</p> <p>■専攻ごとに定めている</p> <p>□その他</p>	<p>◇策定した入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>資料1-2-⑥-(1)-1、P103「策定した入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/advanced/policy</p> <p>資料1-2-⑥-(1)-2、P104「策定した入学者の受入れに関する方針（選抜方針の部分）」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/advanced/policy/senbatu</p>
<p>(2) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や専攻科課程の目的（本評価書Ⅱに記載したもの）、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。</p> <p>■目的・方針等を踏まえて策定している</p> <p>□目的・方針等を踏まえて策定していない</p>	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>
<p>(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。</p> <p>■明示している</p> <p>□明示していない</p>	
<p>(4) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める</p>	

<p>学習成果を含む。)」を明示しているか。</p> <p>■明示している</p> <p>□明示していない</p>	
<p>(5) 受入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。</p> <p>■含まれている</p> <p>□含まれていない</p>	
<p>1-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点</p> <p>1-3 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。</p>	
<p>観点1-3-① 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ (2)の点検の実施については、改組転換といった教育組織の見直しや教育課程の充実（外国語科目の充実や、実務教育科目の充実等。）により、三つの方針の全体若しくはいずれかの見直しを行っていることについて、分析すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第109条 (施)第166条 (設)第2条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。</p> <p>■なっている</p> <p>□なっていない</p>	<p>◇点検を行う体制がわかる資料（関連規定等、毎年度、三つの方針の内容を点検し、必要に応じて見直すことについて定めているもの。）</p> <p>資料1-1-①-(1)-1、P1「明石工業高等専門学校における自己点検・評価の実施方針」（再掲）</p> <p>資料1-3-①-(1)-1、P105「ポリシーの点検を行う体制が分かる資料」</p>
<p>(2) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。</p> <p>■点検して、改定している</p> <p>□点検した上で、変更を要しないと判断している</p> <p>□点検していない</p>	<p>◇点検の実情に関する資料（実績）</p> <p>資料1-3-①-(2)-1、P106「ポリシー点検の実態がわかる議事録（教務委員会）」</p> <p>資料1-3-①-(2)-2、P107「ポリシー点検の実態がわかる議事録（運営会議）」</p>
<p>1-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	

該当なし

基準 1

優れた点

準学士課程の4学科、一般科目および専攻科課程のそれぞれに8項目の学習・教育到達目標を明確に定め、全学生と全教職員に配布している「学生生活のてびき」に掲載するとともに、ホームページでも公開している。

改善を要する点

特になし

基準 2 教育組織及び教員・教育支援者等

<p>評価の視点</p> <p>2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。</p>	
<p>観点 2-1-① 学科の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 準学士課程の目的と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）において、全ての学科に関係する記述が明確になっていることを分析すること。</p> <p>○ 学科ごとの目的が、高等専門学校設置基準の規定に適合しているかどうかとともに、本評価書Ⅱに記載した学校の目的に適合しているかについて分析すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第116条 (設)第4条、第4条の2、第5条、第27条の3</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 学科の構成が学校の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。</p> <p>■整合性がとれている</p> <p>□整合性がとれていない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◆学校の目的及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有した学科の構成となっていることについて、資料を基に記述する。</p> <p>本校には、学校の目的を遂行するため、4学科が設置されている。設置された学科ごとに、その目的及び卒業の認定に関する方針を定めているので、学科の構成は、学校の目的及び卒業の認定に関する方針と整合性がとれている。</p> <p>資料2-1-①-（1）-1、P108「本校の目的、学科の構成、各学科の目的がわかる資料」（学則第1条、第7条、第7条の2）</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/18-17-1.pdf</p> <p>資料2-1-①-（1）-2、P110「卒業認定に関する方針」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/mechanical/policy</p>
<p>観点 2-1-② 専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 専攻科課程の目的と修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）において、全ての専攻に関係する記述が明確になっていることを分析すること。</p> <p>○ 専攻ごとの目的が、学校教育法の規定に適合しているかどうかについて分析すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第119条第2項</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 専攻の構成が学校の目的（本評価書Ⅱに記載したものの。）及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整合性がとれている <input type="checkbox"/> 整合性がとれていない	◇本評価書Ⅱに記載したものの以外に専攻科規程等があれば、それがわかる資料 資料2-1-①-(1)-1、P108「本校の目的、学科の構成、各学科の目的がわかる資料」（再掲）（学則第46条～第47条の2） 資料2-1-②-(1)-1、P111「修了の認定に関する方針」 http://www.akashi.ac.jp/advanced/policy ◆学校の目的及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有した専攻の構成となっていることについて、資料を基に記述する。 本校には、学校の目的を達成するため、2専攻が設置されている。設置された専攻ごとに、その目的及び修了の認定に関する方針を定めているので、専攻の構成は、学校の目的及び修了の認定に関する方針と整合性がとれている。
観点2-1-③ 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。	
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇教育活動を有効に展開するため必要と考えられる教務・学生支援・入試等の委員会の組織体制がわかる資料（当該事項を審議するための組織の構成図、運営規程等） 資料2-1-③-(1)-1、P112「教育活動を有効に展開するための検討・運営体制がわかる資料」
(2) (1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	◇活動が行われている実績がわかる資料（当該事項の審議内容を記した会議の議事録や議事要旨等） 資料2-1-③-(2)-1、P113「平成29年度第1回FD会議議事要録」
2-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

該当なし	
評価の視点	
2-2 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。	
観点2-2-① 学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。	
【留意点】	
○ 本評価書Ⅱに記載した学校の目的に沿って編成された教育課程を展開するために、必要な教員が配置されていることを分析すること。 (例1) 目的に「国際的コミュニケーション能力を育成する」を掲げている場合、英語担当教員の配置の充実や、ネイティブスピーカーの配置の充実等。 (例2) 目的に「実践的技術者を育成する」を掲げている場合、技術資格を有する者や実務経験を有する者を効果的に配置するなど。	
○ (1)(2)に関し、専任教員数には助教の数も含めることができる(助手は除く。)	
○ (4)(5)については、非常勤講師についても分析すること。	
関係法令	(法)第120条 (設)第6条、第7条、第8条、第9条
観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 一般科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 確保している <input type="checkbox"/> 確保していない	◇【別添】高等専門学校現況表
(2) 専門科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 確保している <input type="checkbox"/> 確保していない	
(3) 専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数を法令に従い、確保しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 確保している <input type="checkbox"/> 確保していない	
(4) 適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 担当が適切である <input type="checkbox"/> 担当が適切でない	◇【別添】担当教員一覧表等
(5) 適切な教員配置について専門分野以外に配慮していることがあるか。(該当する選択肢にチェック■する。) <input checked="" type="checkbox"/> 博士の学位 <input checked="" type="checkbox"/> ネイティブスピーカー(担当する言語を母国語とす	◆配慮事項として掲げる博士の学位、ネイティブスピーカー、技術資格、実務経験、海外経験、その他の具体的な内容について、資料を基に記述する。 資料2-2-①-(5)-1、P116「教員の年齢構成・

<p>る)</p> <p>■技術資格</p> <p>■実務経験(教育機関以外の民間企業等における勤務経験者等)</p> <p>■海外経験</p> <p>□その他</p>	<p>男女別人数・博士号、教育・実務経験の状況」</p> <p>資料2-2-①-(5)-2、P117「教員の前歴・学位・資格の状況」</p> <p>・専門科目担当の専任教員全員及び一般科目担当の専任教員の半数以上の者が、博士の学位を取得している。</p> <p>・一般科目の英語科にネイティブスピーカー1名、修習技術者(技術士第一次試験合格者)6名、1級建築士の資格を持つ者3名を専任教員として配置している。</p> <p>・専任教員の約3割の者が教育機関以外の民間企業等における勤務経験がある。なお、一般科目の社会科の専任教員には、民間企業での海外勤務経験がある者がいる。</p> <p>・「経営科学」担当の非常勤講師として、経営管理コンサルタントの実務者を配置している。</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、具体的な配慮事項を記述する。</p>
<p>観点2-2-② 学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 本評価書Ⅱに記載した目的や修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に基づいて編成された教育課程を展開するために必要な教員が配置されていることを分析すること。</p> <p>(例) 目的に「応用開発型技術者を育成する」を掲げている場合、博士取得者、技術資格を有する者や実務経験を有する者を効果的に配置するなど。</p> <p>○ 本評価書Ⅰ(1)4.において、特例適用専攻科について記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第119条第2項</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p> <p>(根拠理由欄)</p> <p>本校の専攻科2専攻は、平成27年度特例適用専攻科の認定を受けており、専攻科課程の目的に沿った各分野の教育研究に十分な能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されていると判断する。</p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 専攻科の授業科目担当教員を適切に確保しているか。</p> <p>□適切に確保している</p> <p>□適切に確保していない</p>	<p>◇【別添】担当教員一覧表等</p>

<p>(2) 適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 担当が適切である</p> <p><input type="checkbox"/> 担当が適切でない</p>	<p>◆左記について、資料を基に記述する。</p>
<p>(3) 適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 担当が適切である</p> <p><input type="checkbox"/> 担当が適切でない</p>	<p>◇適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当していることがわかる資料</p>
<p>観点 2-2-③ 学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設) 第 6 条第 6 項</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教員の配置について、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 配慮している</p> <p><input type="checkbox"/> 配慮していない</p>	<p>◇教員の年齢構成がわかる資料 (観点 4-3-①の、教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する根拠資料を流用してもよい。)</p> <p>資料 2-2-①-(5)-1、P116「教員の年齢構成・男女別人数・博士号、教育・実務経験の状況」(再掲)</p> <p>◆配慮の取組について、資料を基に記述する。</p> <p>国立高専は、教職員について定年制をとっているため(ただし、運営費交付金で雇用する教員は、助教のみ、博士又は技術士等の資格及び相応の教育又は研究業績を有しない者に限り、任期を付すことが可能)、本校の場合、教授のほとんど及び准教授の多数の欠員補充は学内昇任となる傾向があるので、准教授の人員枠を活用して助教等の若手教員の採用に配慮し、できるだけ年齢構成バランスをとるようにしている。</p>
<p>(2) (1)以外に配慮している措置はあるか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p><input type="checkbox"/> 教育経歴</p> <p><input type="checkbox"/> 実務経歴</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 男女比</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他</p>	<p>◇左記でチェックした項目について、実施状況がわかる資料</p> <p>資料 2-2-③-(2)-1、P118「教員(英語)公募要領」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p> <p>本校では、学生指導(学級担任、クラブ顧問、寮生指導等)に熱意を持って取り組み、指導方法等に創意工夫ができることを重視し、資料 2-2-③-(2)-1、P118「教員(英語)公募要領」(再掲)のとおり教員公募の応募資</p>

	格の一つに掲げている。
<p>(3) 在職する教員に対して教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るために行っている措置等はあるか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>■学位取得に関する支援</p> <p><input type="checkbox"/>任期制の導入</p> <p>■公募制の導入</p> <p>■教員表彰制度の導入</p> <p><input type="checkbox"/>企業研修への参加支援</p> <p>■校長裁量経費等の予算配分</p> <p><input type="checkbox"/>ゆとりの時間確保策の導入</p> <p><input type="checkbox"/>サバティカル制度の導入</p> <p><input type="checkbox"/>他の教育機関との人事交流</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>◇左記でチェックした項目について、実施状況がわかる資料</p> <p>資料2-2-③-(3)-1、p119「学位取得に関する支援状況がわかる資料(規則)」</p> <p>資料2-2-③-(3)-2、P120「学位取得に関する支援状況がわかる資料(職務専念義務免除願)」</p> <p>資料2-2-③-(2)-1、P118「教員(英語)公募要領」(再掲)</p> <p>資料2-2-③-(3)-3、P121「教職員の表彰について」</p> <p>資料2-2-③-(3)-4、P122「校長裁量経費:教育研究活性化経費」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>2-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点</p> <p>2-3 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。</p>	
<p>観点2-3-① 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 全教員(非常勤教員を除く。)に対して校長又はその委任を受けた者による教育上の能力や活動実績に関する評価を定期的に行い、その結果を基に給与・研究費配分への反映や教員組織の見直し等の適切な取組を行う体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p>	<p>◇教員評価に係る規程等がわかる資料</p> <p>資料2-3-①-(1)-1、P123「教育研究活動評価等委員会規程」</p> <p>資料2-3-①-(1)-2、P124「教員評価の取り扱いについて」</p> <p>教員評価は、「教員による自己評価」「教員による相互評価」</p>

<p><input type="checkbox"/>整備していない</p> <p>(2) (1)の体制の下、教員評価を実施しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>実施している</p> <p><input type="checkbox"/>実施していない</p>	<p>「学生による評価」を資料として、教育研究活動評価等委員会による第二次評価（書面）、校長・副校長（総務担当）による第三次評価（書面）により実施している。</p> <p>◇給与や研究費配分に活用することとしているか、教員組織の見直し等に活用することとしているかがわかる資料 資料2-2-③-(3)-3、P121「教職員の表彰について」（再掲）</p>
<p>(3) 把握した評価結果を基に、行っている取組はあるか。 （該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p><input type="checkbox"/>給与における措置</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>研究費配分における措置</p> <p><input type="checkbox"/>教員組織の見直し</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>表彰</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p> <p>◆評価結果を具体的にどのように活用しているのか、資料を基に記述する。</p> <p>教員評価の結果の上位者2名を国立高等専門学校教員顕彰候補者として国立高等専門学校機構理事長に推薦するとともに、被推薦者を本校として表彰し、研究費（30万円）を配分している。なお、「教員による自己評価」の中の「自由記述調書」をより、組織運営（校務）への取組の意欲を確認している。</p> <p>資料2-2-③-(3)-3、P121「教職員の表彰について」（再掲）</p> <p>資料2-3-①-(1)-2、P124「教員評価の取り扱いについて（再掲）」</p>
<p>(4) 非常勤教員に対し教員評価を実施しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>実施している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>実施していない</p>	<p>◇教員評価に係る規程等を定めた資料</p> <p>◇実施していることがわかる資料</p>
<p>観点2-3-② 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ (3)の◆の自己評価において、採用や昇格等に関する規程が高等専門学校設置基準に適合することについて、採用や昇格に関して教育上の能力を考慮していることについても言及すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第11～14条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教員（非常勤教員を除く。）の採用・昇格等に関する基準を法令に従い定めているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>定めている</p> <p><input type="checkbox"/>定めていない</p>	<p>◇定めている規程がわかる資料（採用・昇格に関する体制、方法、教員の資格、能力や業績に関する基準等が明記されているもの。）</p> <p>資料2-3-②-(1)-1、P134「教員選考規則」</p>

	<p>資料2-3-②-(1)-2、P136「教員選考基準」</p>
<p>(2) (1)で定められている基準等では、教育上の能力等を 確認する仕組みとなっているか。(該当する選択肢にチ ェック■する。)</p> <p>■模擬授業の実施</p> <p>■教育歴の確認</p> <p>■実務経験の確認</p> <p>□海外経験の確認</p> <p>□国際的な活動実績の確認</p> <p>□その他</p>	<p>◇実施・確認していることがわかる資料</p> <p>資料2-2-③-(2)-1、P118「教員(英語)公募 要領」(再掲)</p> <p>資料2-3-②-(2)-1、P138「教員選考個人調書 様式(昇任)」</p> <p>資料2-3-②-(2)-2、P145「明石高専の教員が 携わる校務内容の概略」</p> <p>教員公募による採用では、面接時に、英語による自己紹介 又は質疑応答及び模擬授業又はプレゼンテーションを課 し、提出書類(履歴書、着任後の抱負、教育研究業績一覧 及び推薦書)により教育歴、研究活動、実務経験等を確認 するほか、校務について資料を示して説明を行うととも に、学校運営、厚生補導、地域連携活動、学校プロジェク ト、新職務に対する抱負等について質疑応答を行っている。 なお、推薦書では、「特に教育実績に関する所見」を 求めている。</p> <p>昇任時には、教員選考委員会において、教員選考個人調書 及び面接により、教育活動状況、研究活動状況、新職務に 対する抱負等について確認している。面接では、英語によ る自己紹介又は質疑応答を課している。なお、本校では、 校務を重要な職務と考えているので、「明石工業高等専門 学校教員選考基準」の「4」に定めているとおり、教授昇 任については、校務経験を条件としている。」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、そ の状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>(3) (1)の基準等に基づき、実際の採用・昇格等を行って いるか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>◆左記について、採用・昇格の実績を踏まえ、資料を基に 記述する。</p> <p>教員公募による採用及び昇任の選考過程について、議事要 録を資料にして説明する。</p> <p>採用については、校長の学科長等とのヒアリングを踏まえ た人事方針の提案、審議→公募要領作成→公募→書類審査 担当者・面接審査担当者の決定→書類審査→面接審査→採 用候補者決定の流れである。</p> <p>昇任については、校長の学科長等とのヒアリングを踏まえ た人事方針の提案、審議→書類選考→面接選考→昇任の可 否の決定の流れである。</p> <p>「教員選考委員会議事要録」(人事情報が含まれているた</p>

	め、訪問調査時に提示する。)
(4) 非常勤教員の採用基準等を定めているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない	◇非常勤教員の採用基準等の規程がわかる資料 資料2-3-②-(4)-1、P146「非常勤講師等の雇用に関する取扱いについて」
2-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
該当なし	
評価の視点	
2-4 教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。	
観点2-4-① 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。	
【留意点】なし。	
関係法令	(設)第17条の4
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を実施する体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇関係する委員会等の組織関係図、役割と責任が把握できる資料、関連規程 資料2-4-①-(1)-1、P148「FDに関係する委員会等の組織関係図」 資料2-4-①-(1)-2、P149「FD関連規程」 ◇実施体制・実施方針・内容・方法がわかる資料 資料2-4-①-(1)-3、P152「FDの実施体制のわかる資料」
(2) 定期的にFDを実施しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 実施していない	◇実施状況（参加状況等。）がわかる資料 資料2-4-①-(2)-1、P153「教員対象のFD・研修等の実施・参加状況」 ◇FDに関する報告書等の該当箇所等 資料2-4-①-(2)-2、P154「FDに関する報告書等」
(3) (2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 結びついていない	◆FDの結果、改善に結びついた事例で組織として把握している取組について、資料を基に記述する。 本校は、平成28年度から、2～4年生の学生を、学年・学科を超えた8～9人のグループに分け、指導担当教員1人をつけて、「自立・協働・創造」を育てるCo+workとい

	<p>う、アクティブラーニングを取り入れた授業を行っている。このため、本校は、FDでは、特に、アクティブラーニングの教育能力の向上に力を入れている。PROG テストの結果を見ると、学生のリテラシー及びコンピテンシーの向上が認められ、アクティブラーニングの有効性ととともに、教員の教育方法の開発・実践が寄与しているものと考えている。</p> <p>資料2-4-①-(3)-1、P163「PBL"Co+work"の教育効果」</p>
<p>観点2-4-② 学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。</p>	
<p>【留意点】 ○ 助手を配置している場合には、組織、人数、支援内容等の配置状況がわかる資料を提示すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第120第1項第1号、2号、7号 (設)第7条、第10条、第25条第2項</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）を法令に従い適切に配置しているか。</p> <p>■配置している □配置していない</p>	<p>◇【別添】高等専門学校現況表、教育支援者に関する事務組織図、役割分担がわかる資料</p> <p>資料2-4-②-(1)-1、P169「明石高専の職員組織」</p>
<p>(2) 図書館に司書等の専門的職員を法令に従い配置しているか。</p> <p>■配置している □配置していない</p>	
<p>観点2-4-③ 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。</p>	
<p>【留意点】 ○ スタッフ・ディベロップメント（管理運営等の研修）への取組は観点4-2-⑤で分析するため、ここでは、FDに関連した教育の質の向上や授業の改善に関する教育支援者に対する取組を分析すること。FDへの取組の中で教員と教育支援者双方を対象とするものも想定される。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>(1) 教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組を適切に行っているか。</p> <p>■行っている</p>	<p>◇研修等の実施状況（参加状況等。）の取組がわかる資料</p> <p>資料2-4-③-(1)-1、P170「FD研修（教員以外の職員）」</p>

<input type="checkbox"/> 行っていない	
2-4 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
該当なし	

基準 2

優れた点
Co+work を中心としたFDの活発な実施状況と、それによる学生の能力向上が顕著である。
改善を要する点
特になし

基準3 学習環境及び学生支援等

<p>評価の視点</p> <p>3-1 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また、ICT環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。</p>	
<p>観点3-1-① 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ (4)の専用の施設とは、高等専門学校設置基準第23条に規定する施設のことである。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第22条、第23条、第24条、第26条、第27条、第27条の2、(施)第172条の2</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 校地面積を法令に従い適切に確保しているか。</p> <p>■確保している</p> <p>□確保していない</p>	<p>◇【別添】高等専門学校現況表</p>
<p>(2) 校舎面積を法令に従い適切に確保しているか。</p> <p>■確保している</p> <p>□確保していない</p>	<p>◇【別添】高等専門学校現況表</p>
<p>(3) 運動場を設けているか。</p> <p>■校舎と同一の敷地内又はその隣接地に設けている</p> <p>□その他の適当な位置に設けている</p> <p>□設けていない</p>	<p>◇設置状況がわかる資料</p> <p>資料3-1-①-(3)-1、P171「運動場の設置状況がわかる資料」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/guide/facility</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その設置場所を具体的に記述する。</p>
<p>(4) 高等専門学校の校舎に専用の施設を法令に従い適切に備えているか。</p> <p>■備えている</p> <p>□備えていない</p>	<p>◇設置状況がわかる資料</p> <p>資料3-1-①-(4)-1、P172「専用の施設の設置状況がわかる資料」</p> <p>資料3-1-①-(3)-1、P171「運動場の設置状況がわかる資料」(再掲)</p>
<p>(5) 学科の種類に応じ、附属施設を法令に従い適切に整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>■実験・実習工場</p> <p>□練習船</p> <p>□その他</p>	<p>◇設置状況がわかる資料</p> <p>資料3-1-①-(5)-1、P179「施設の概況」</p> <p>資料3-1-①-(5)-2、P180「実習工場の設置状況がわかる資料」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/techsupport/workshop/ 設備紹介</p> <p>資料3-1-①-(5)-3、P181「施設・設備」(機械工</p>

	<p>学科)</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/mechanical/m_facility</p> <p>資料3-1-①-(5)-4、P182「施設・設備」(電気情報工学科)</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/electrical/e_facility</p> <p>資料3-1-①-(5)-5、P183「施設・設備」(都市システム工学科)</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/civil/c_facility</p> <p>資料3-1-①-(5)-6、P184「施設・設備」(建築学科)</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/architecture/a_facility</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その施設を具体的に記述する。</p>
<p>(6) 自主的学習スペースを設けているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 設けている</p> <p><input type="checkbox"/> 設けていない</p>	<p>◇設置状況がわかる資料</p> <p>資料3-1-①-(6)-1、P185「福利施設1階 自習室としての利用について」</p> <p>資料3-1-①-(6)-2、P186「自主的学習スペースの設置状況(協同学習センター)」</p> <p>資料3-1-①-(6)-3、P187「自主的学習スペースの設置状況(協同学習センター開所ニュース)」</p> <p>https://www.akashi.ac.jp/blog/archives/11161</p> <p>資料3-1-①-(6)-4、P188「自主的学習スペースの設置状況(グローバルテラス)」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/globalterrace/facility</p> <p>資料3-1-①-(6)-5、P189「自主的学習スペースの設置状況(情報センター)」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/informationcenter/time</p>
<p>(7) 教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。(該当する選択肢にチェックする。)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 厚生施設</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションスペース</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>◇設置状況がわかる資料</p> <p>資料3-1-①-(7)-1、P190「厚生施設の設置状況がわかる資料」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/life/welfare</p> <p>資料3-1-①-(7)-2、P191「コミュニケーションスペース等」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その施設を具体的に記述する。</p>
<p>(8) 施設・設備の安全衛生管理体制を整備しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 整備している</p> <p><input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇安全衛生管理体制がわかる資料</p> <p>資料3-1-①-(8)-1、P192「安全衛生管理体制」</p> <p>◇設備使用に関する規定、設備利用の手引き等</p>

	<p>資料3-1-①-(8)-2、P193「設備使用に関する手引き等」</p> <p>資料3-1-①-(8)-3、P197「設備使用に関する規程、設備利用の手引き等」</p>
<p>(9) (8)の体制が有効に機能しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>機能している</p> <p><input type="checkbox"/>機能していない</p>	<p>◆安全(指導)管理に係る講習会等が行われている事例に関する資料を基に記述する。</p> <p>前項管理体制に基づく実際の管理の取り組みとして、定期的な安全巡視が行われている。同巡視は労働環境の安全・衛生に限らず教育施設も点検・指導の対象としており、構内全般の安全管理に貢献している。</p> <p>特に実習工場においては、1年次の初回授業で利用方法等の講習を行い安全確保の徹底を図っているのに加え、ロボコン参加者等の課外活動利用者を対象としても安全講習会を実施している。</p> <p>資料3-1-①-(9)-1、P199「安全管理(指導)にかかる講習会等が行われている事例に関する資料」</p>
<p>(10) 施設・設備のバリアフリー化への配慮を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>行っている</p> <p><input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◇施設・設備の整備状況・整備計画等のバリアフリー化への取組を示す資料</p> <p>資料3-1-①-(10)-1、P201「身障者対応箇所図面」</p> <p>資料3-1-①-(10)-2、P202「図書館バリアフリー情報」</p> <p>https://www.akashi.ac.jp/library</p>
<p>(11) 整備された教育・生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>整備している</p> <p><input type="checkbox"/>整備していない</p>	<p>◇体制に関する規程等の資料</p> <p>資料3-1-①-(11)-1、P203「教育・生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制」</p>
<p>(12) (11)の体制において、教育・生活環境の利用状況や満足度等を把握し、改善等を実際に行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>行っている</p> <p><input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◇教育・生活環境の利用状況や満足度等が把握できる資料</p> <p>資料3-1-①-(12)-1、P204「教育・生活環境の利用状況や満足度等が把握できる資料」</p> <p>◆左記について、改善を行った事例があれば、その事例の内容がわかる資料を基に記述する。</p> <p>学生からの要望にあった学生証の見直しについて、これまでのパウチした学生証では数年使用しているとセロハン部が剥離したり、端が折れてくるなど学生からの苦情も少なくなかった。新しい学生証にするための予算確保や交換の手間など校長からのトップダウンにより円滑に改善できた。資料3-1-①-(12)-2、P208「教育・生活環境の改善事例」のとおり平成30年4月以降様式変更を行い、順次新学生証に更新した。</p>

<p>観点3-1-② 教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ この観点のICT環境とは、無線・有線LANやパソコン等の活用環境等のネットワークシステムの整備状況（利用可能なエリアの状況も含む。）の概要を想定しており、ネットワークシステムの具体的な方式等については資料として求めている。</p> <p>○ この観点では、ハードウェアの側面から捉えたICT環境について分析するものとし、ソフトウェアの側面から構築された成績確認や学習相談等に関するシステムの整備については、観点3-2-②で分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境を適切に整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇ICT環境の整備状況がわかる資料(学校内ネットワーク環境の整備状況、授業内外で学生が利用可能なパソコンの台数、情報処理センターの組織規程等)</p> <p>資料3-1-②-(1)-1、P209「ネットワーク環境整備状況」</p> <p>資料3-1-②-(1)-2、P212「学生が利用可能なパソコン(情報センター)」</p> <p>資料3-1-②-(1)-3、P213「情報処理センターの組織規程等」</p>
<p>(2) ICT環境のセキュリティ管理体制を適切に整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇セキュリティ管理に関する規程等、セキュリティポリシー、セキュリティシステムの概要、ICT環境の管理体制及び業務内容、講習会等がわかる資料</p> <p>資料3-1-②-(2)-1、P214「セキュリティ管理に関する規程等」</p> <p>資料3-1-②-(2)-2、P215「セキュリティポリシー」</p> <p>資料3-1-②-(2)-3、P216「セキュリティシステムの概要がわかる資料」</p> <p>資料3-1-②-(2)-4、P217「ICT環境の管理体制及び業務内容が分かる資料」</p> <p>資料3-1-②-(2)-5、P220「情報セキュリティ講習」</p>
<p>(3) ICT環境は有効に活用されているか。</p> <p>■活用されている</p> <p>□活用されていない</p>	<p>◇ICT環境の利用状況がわかる資料</p> <p>資料3-1-②-(3)-1、P221「ICT環境の利用状況がわかる資料」</p> <p>資料3-1-②-(3)-2、P222「情報センター利用状況」</p>

	http://www.akashi.ac.jp/informationcenter/available/earlyperiod
<p>(4) (3)について学生や教職員のICT環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇体制に関する規定等の資料</p> <p>資料3-1-①-(11)-1、P203「教育・生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制」(再掲)</p> <p>資料3-1-②-(4)-1、P223「教職員のICT環境の利用状況や満足度を把握し改善等を行う体制がわかる資料」</p>
<p>(5) (4)の体制が機能しているか。</p> <p>■機能している □機能していない</p>	<p>◆左記について、改善を行った事例がある場合は、その事例の内容がわかる資料を基に記述する。</p> <p>資料3-1-②-(5)-1、P224「学生のICT環境の利用状況や満足度等を把握し改善等を行う体制が機能していることがわかる資料」のとおり、学生の要望に対応して日常業務での改善を実施している。</p> <p>また、情報センター委員会を通じて資料3-1-②-(5)-2、P225「ICT環境改善事例」のとおり、各学科教員の検討内容を踏まえて、教育計算機システムの更新時期に合わせて時代のニーズに合ったICT環境を整備した。</p>
<p>観点3-1-③ 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 教育課程、学科の種類、学年区分に応じて、教育研究上必要となる図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の資料が系統的(学科構成に対応した系統性、学習内容に対応した分野やレベル等の系統性。)に収集、整理されているかについて分析すること。また、活用面について、これらの資料の教職員や学生による利用状況等について分析すること。</p> <p>○ 図書等の整備方針、整備状況及び図書館等の開館時間がわかる資料を提示すること。</p>	
関係法令	(設)第25条
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 図書館の設備を法令に従い備えているか。</p> <p>■備えている □備えていない</p>	<p>◇整備状況がわかる資料</p> <p>資料3-1-③-(1)-1、P226「図書館設備(フロアマップ)」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/library/floormap</p>
<p>(2) 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を系統的に収集、整理しているか。</p> <p>■系統的に収集、整理している</p>	<p>◇整備方針、整備状況(内訳、冊子等のデータ)がわかる資料</p> <p>資料3-1-③-(2)-1、P227「図書等の整備方針」</p>

<input type="checkbox"/> 系統的に収集、整理していない	資料3-1-③-(2)-2、P228「図書等の整備状況」
(3) (2)の資料は、教職員や学生に有効に活用されているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 活用されている <input type="checkbox"/> 活用されていない	◇図書館等の教職員や学生による利用状況（図書等貸出数、図書館入館者数）がわかる資料 資料3-1-③-(3)-1、P229「図書館利用統計」
(4) (2)の資料が有効に活用されるための取組を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	◇図書館等の利用サービスに係る取組（開館時間への配慮、職員等によるガイダンス等）がわかる資料 資料3-1-③-(4)-1、P230「図書館利用案内」 http://www.akashi.ac.jp/library/wp-content/uploads/sites/18/2016/10/6e09602e1354d3b390a2c14d7e648e1c.pdf
3-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
該当なし	
評価の視点 3-2 教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。	
観点3-2-① 履修等に関するガイダンスを実施しているか。	
【留意点】 <input type="checkbox"/> 入学時や授業登録時等において実施しているガイダンスについて、学校全体に対するものか、学年全体に対するものか、学科・専攻ごとに実施するものか、それぞれの内容が適切なものかについて分析すること。 <input type="checkbox"/> 図書館、実験・実習工場等の利用に関するガイダンスの実施について分析すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） <input checked="" type="checkbox"/> 学科生 <input checked="" type="checkbox"/> 専攻科生 <input checked="" type="checkbox"/> 編入学生 <input checked="" type="checkbox"/> 留学生 <input checked="" type="checkbox"/> 障害のある学生 <input type="checkbox"/> 社会人学生 <input type="checkbox"/> その他	◇実施状況がわかる資料 資料3-2-①-(1)-1、P231「教育ガイダンス実施状況」 資料3-2-①-(1)-2、P236「教育ガイダンスに利用している刊行物（学生生活のてびき）」 http://www.akashi.ac.jp/life/handbook 資料3-2-①-(1)-3、P240「教育ガイダンスに使用している配布資料（履修の手引き）」 ◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。
観点3-2-② 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等	

を行う体制が整備され、機能しているか。	
【留意点】 ○ (1)の相談・助言体制については、学生への周知状況（刊行物、プリント、ウェブサイト等の該当箇所。）についても分析すること。 ○ 相談・助言体制やニーズ把握の仕組みが機能しているかを確認するため、それぞれの体制の利用状況や、ニーズを把握するための仕組みについて分析すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■担任制・指導教員制の整備 ■オフィスアワーの整備 ■対面型の相談受付体制の整備 ■電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 □その他	◇チェックした選択肢に関する状況がわかる資料 資料3-2-②-(1)-1、P242「担任制の整備」 資料3-2-②-(1)-2、P244「専攻科指導教員体制」 資料3-2-②-(1)-3、P245「オフィスアワー一覧」 資料3-2-②-(1)-4、P246「対面型及び電子メールによる相談受付体制がわかる資料」 資料3-2-②-(1)-5、P248「資格試験・検定試験等支援体制」 資料3-2-②-(1)-6、P250「グローバルエデュケーションセンターによる留学支援体制」 http://www.akashi.ac.jp/global/gec http://www.akashi.ac.jp/global/pathway ◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。
(2) (1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない	◇各種相談助言体制の利用状況（実績・相談対応例等）がわかる資料 資料3-2-②-(2)-1、P251「学生相談室利用状況」 ◇利用状況等の実績がわかる資料 「担任会議議事録」（訪問調査時資料）
(3) 学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■担任制・指導教員制の導入 □学生との懇談会 ■意見投書箱 ■その他	◇制度がわかる資料 資料3-2-②-(3)-1、P253「学習支援に係る担任体制がわかる資料」 資料3-1-①-(11)-1、P203「教育・生活環境の利用状況や満足度を学校として把握し、改善等を行う体制」（再掲） ◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。

	<p>学生ニーズを把握するため授業アンケートを実施している。</p> <p>資料3-2-②-(3)-2、P254「学生ニーズを把握する制度：授業アンケート」</p>
<p>(4) (3)は、有効に機能しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>機能している</p> <p><input type="checkbox"/>機能していない</p>	<p>◇制度の機能状況がわかる資料</p> <p>資料3-2-②-(4)-1、P256「意見投書箱の機能状況がわかる資料」</p> <p>資料3-2-②-(4)-2、P258「授業アンケートの機能状況がわかる資料」</p> <p>「担任会議議事録」（訪問調査時資料）</p>
<p>観点3-2-③ 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 障害者差別解消法への対応については、学校独自の取組のほか、設置法人が当該学校を対象として対応しているものについても、資料として提示すること。</p> <p>○ (10)については、必須入力欄ではないことに留意し、該当する取組が行われている場合のみ、「行っている」にチェック<input checked="" type="checkbox"/>し、右欄にそれに関して記述すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>教育基本法第4条第2項（教育の機会均等） 障害者差別解消法第5条（社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮に関する環境の整備）及び第7条（行政機関等における障害を理由とする差別の禁止）又は第8条（事業者における障害を理由とする差別の禁止）第9条～11条</p> <p>※障害者差別解消法とは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成二十五年法律第六十五号）」の略称のこと。</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック<input checked="" type="checkbox"/>）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック<input checked="" type="checkbox"/>）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 留学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>整備している</p> <p><input type="checkbox"/>整備していない</p>	<p>◇整備状況がわかる資料</p> <p>資料3-2-③-(1)-1、P259「外国人留学生規程」</p> <p>資料3-2-③-(1)-2、P260「チューター制度実施要項」</p>
<p>(2) (1)の体制において、留学生の支援を必要に応じて行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>行っている</p> <p><input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◇留学生を支援する取組（留学生指導教員の配置、留学生チューターの配置等）がわかる資料</p> <p>資料3-2-③-(2)-1、P262「留学生指導教員・チューター一覧」</p> <p>◇支援の実施状況がわかる資料</p> <p>資料3-2-③-(2)-2、P263「留学生支援の実施状況がわかる資料」</p>
<p>(3) 編入学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。</p>	<p>◇整備状況がわかる資料</p> <p>（再掲）資料3-2-②-(1)-1、P242「担任制の整</p>

<p>■整備している □整備していない</p>	<p>備」、資料3-2-②-(1)-3、P245「オフィスアワー一覧」、資料3-2-②-(1)-4、P246「対面型及び電子メールによる相談受付体制がわかる資料」</p>
<p>(4) (3)の体制において、編入学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない</p>	<p>◇編入学生を支援する取組がわかる資料 資料3-2-③-(4)-1、P264「編入学生支援の実施例」 ◇入学前の指導を行っている場合には、指導スケジュール、指導内容等が記載された資料 資料3-2-③-(4)-2、P265「編入学生への入学前指導がわかる資料」 ◇入学後に補習授業や学習相談等を行っている場合には、実施状況及びその内容（担当教員、実施科目、対象者別実施回数、使用教材等。） ◇支援の実施状況がわかる資料</p>
<p>(5) 社会人学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない</p>	<p>◇整備状況がわかる資料 （再掲）資料3-2-②-(1)-1、P242「担任制の整備」、資料3-2-②-(1)-3、P245「オフィスアワー一覧」、資料3-2-②-(1)-4、P246「対面型及び電子メールによる相談受付体制がわかる資料」</p>
<p>(6) (5)の体制において、社会人学生の支援を必要に応じて行っているか。 □行っている ■行っていない</p>	<p>◇社会人学生を支援する取組（情報提供（電子メール、ウェブサイト等。))がわかる資料 ◇社会人学生に対する学習相談の制度が把握できる資料（オフィスアワー一覧表、配付プリントの該当箇所等。） ◇支援の実施状況がわかる資料</p>
<p>(7) 障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない</p>	<p>◇整備状況がわかる資料 資料3-2-③-(7)-1、P266「障害のある学生の支援体制」</p>
<p>(8) (7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない</p>	<p>◇障害のある学生を支援する取組（ノートテーカー、チューターの配置）がわかる資料 資料3-2-③-(8)-1、P267「障害のある学生の支援要領」 ◇支援の実施状況がわかる資料 「障害のある学生支援実施例」（訪問調査時資料）</p>
<p>(9) 障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9</p>	<p>◇対応状況がわかる資料</p>

<p>条、第 10 条、第 11 条の関係条項も含む。)に対応しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 対応している</p> <p><input type="checkbox"/> 対応していない</p>	<p>資料 3-2-③-(9)-1、P271「障害者差別解消法対応状況」</p>
<p>(10) 上記以外の特別な支援を行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◆左記について、該当する取組があれば、資料を基に記述する。</p>
<p>観点 3-2-④ 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第 12 条 学校保健安全法第 8 条、第 13 条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制に関し、どのように整備しているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 学生相談室</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 保健センター</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 相談員やカウンセラーの配置</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ハラスメント等の相談体制</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 学生に対する相談の案内等</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 奨学金</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 授業料減免</p> <p><input type="checkbox"/> 特待生</p> <p><input type="checkbox"/> 緊急時の貸与等の制度</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>◇それぞれの体制の整備状況がわかる資料(生活指導の体制、指導内容、組織図、関連規程、委員会等)</p> <p>資料 3-2-④-(1)-1、P272「学生相談室、相談員、カウンセラーの配置」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/counseling/</p> <p>資料 3-2-④-(1)-2、P274「保健室の状況」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/nurse/</p> <p>資料 3-2-④-(1)-3、P275「学生に対する相談案内」</p> <p>資料 3-2-④-(1)-4、P276「学生相談室規程」</p> <p>資料 3-2-④-(1)-5、P277「ハラスメント等の相談体制に関連する規程」</p> <p>資料 3-2-④-(1)-6、P278「奨学金整備状況」</p> <p>資料 3-2-④-(1)-7、P279「授業料減免授業料減免に関連する規程」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>(2) 健康診断及び健康相談・保健指導を定期的実施しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 実施している</p> <p><input type="checkbox"/> 実施していない</p>	<p>◇各取組の実施状況がわかる資料</p> <p>資料 3-2-④-(2)-1、P280「健康診断等実施状況」</p>
<p>(3) (2)以外で、(1)の体制に基づいた学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の活動が実際に学生に利用されているか。</p>	<p>◇相談実績（相談・対応例）、各体制に係る委員会等の実施状況がわかる資料</p> <p>資料 3-2-④-(3)-1、P281「学生相談室利用状況」</p>

<p>■利用されている □利用されていない</p>	<p>◇奨学金等の状況がわかる資料 資料3-2-④-(3)-2、P283「奨学金の状況がわかる資料」 授業料減免実績（訪問調査時資料）</p>
<p>観点3-2-⑤ 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談を行っている場合には、担当教員、受講者数、実施科目、対象者別実施回数、使用教材、配布プリント等、概要がわかる資料を根拠資料として提示すること。また、資格試験・検定試験の受験者数、合格者数等の実績から機能しているかを分析すること。</p> <p>○ 資格取得による単位修得の認定を行っている場合には、関連規程、単位認定実績等を根拠資料として提示すること。</p> <p>○ 外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等を行っている場合には、内容が把握できる資料や関連規程、留学実績等を根拠資料として提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇体制の整備状況がわかる資料 資料3-2-⑤-(1)-1、P284「キャリア教育体制整備状況（進路指導委員会）」 資料3-2-⑤-(1)-2、P285「キャリア教育体制整備状況（進路指導計画）」 資料3-2-⑤-(1)-3、P286「キャリア教育体制整備状況（学生相談室）」 資料3-2-⑤-(1)-4、P287「キャリア教育体制整備状況（修学支援体制）」</p>
<p>(2) (1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校としてどのような取組を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>■キャリア教育に関する研修会・講演会の実施 ■進路指導用マニュアルの作成 ■進路指導ガイダンスの実施 ■進路指導室 ■進路先（企業）訪問 ■進学・就職に関する説明会 ■資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談 ■資格取得による単位修得の認定 ■外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等</p>	<p>◇左記でチェック■した取組状況がわかる資料 資料3-2-⑤-(2)-1、P288「キャリア教育に関する研修会・講演会、進路指導ガイダンス及び進学・就職に関する説明会実施状況がわかる資料」 資料3-2-⑤-(2)-2、P289「進路指導用マニュアルの作成状況がわかる資料」 資料3-2-⑤-(2)-3、P291「資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談の取組状況がわかる資料」 資料3-2-⑤-(2)-4、P292「資格取得による単位認定科目」 資料3-2-⑤-(2)-5、P293「外国留学の支援状況」 http://www.akashi.ac.jp/global/gec http://www.akashi.ac.jp/globalterrace/</p>

<input type="checkbox"/> その他	http://www.akashi.ac.jp/partnership-and-contribution/overseas ◆その他の項目をチェックした場合は、具体的な内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。
(3) (2)の取組が機能しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 機能している <input type="checkbox"/> 機能していない	◇それぞれの取組の（活用）実態がわかる資料 担任会議進路関係議事録（訪問調査時資料）
観点3-2-⑥ 学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。	
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の課外活動に対する支援体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇課外活動に関する規程、組織図、施設の整備状況がわかる資料 資料3-2-⑥-(1)-1、P300「課外活動の組織・規程」 資料3-2-⑥-(1)-2、P307「課外活動に供する施設」
(2) (1)の体制において、責任の所在が明確になっているか。 <input checked="" type="checkbox"/> なっている <input type="checkbox"/> なっていない	◇(1)の体制において、責任の所在がわかる資料 資料3-2-⑥-(2)-1、P313「課外活動指導体制」
(3) 学校としての支援活動の内容からみて、(1)の体制が機能しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 機能している <input type="checkbox"/> 機能していない	◇課外活動に対する支援活動の内容がわかる資料 資料3-2-⑥-(3)-1、P314「課外活動に対する支援活動の内容が分かる資料」
観点3-2-⑦ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない <input type="checkbox"/> 学生寮を整備していないので、該当しない（→この場合は、(1)以下の記入は不要）	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生寮を整備しているか。	◇整備状況がわかる資料

<input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	資料3-2-⑦-(1)-1、P316「学生寮整備状況」 http://www.akashi.ac.jp/dormitory/facility
(2) 生活の場として整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇生活支援の内容がわかる資料（談話室、補食室等の整備状況等。） 資料3-2-⑦-(2)-1、P319「学生寮生活支援状況」 http://www.akashi.ac.jp/dormitory/facility http://www.akashi.ac.jp/dormitory/mens http://www.akashi.ac.jp/dormitory/womens
(3) 勉学の場として整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇学習支援の内容がわかる資料（自習室の整備状況、自習時間の設定状況等の整備面での工夫等。） 資料3-2-⑦-(3)-1、P324「学生寮学習支援状況」 http://www.akashi.ac.jp/dormitory/life/dail
(4) (2)(3)について、有効に機能しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 機能している <input type="checkbox"/> 機能していない	◇入寮状況がわかる資料 資料3-2-⑦-(4)-1、P325「学生寮入寮状況」 ◇勉学の場としての活用実績がわかる資料 資料3-2-⑦-(4)-2、P326「勉学の場としての機能」
(5) 管理・運営体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇学生寮の管理規程等の資料 資料3-2-⑦-(5)-1、P329「学寮規程」 資料3-2-⑦-(5)-2、P331「学寮細則」
3-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
該当なし	

基準3

<p>優れた点</p> <p>キャリア教育を重点に学校のチームとしての修学支援体制を整備し、学生の希望進路実現へ向けた環境を学校として備えている。</p>
<p>改善を要する点</p> <p>特になし</p>

基準 4 財務基盤及び管理運営

<p>評価の視点</p> <p>4-1 学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。</p>	
<p>観点 4-1-① 学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できるよう校地、校舎等の資産を保有しているか、経常的な収入が確保できているか、債務超過や支出超過の状態がある場合、運営上問題とならないものか等の状況について分析すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第 27 条の 2</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 過去 5 年間の貸借対照表等による財務状態は適切な状況となっているか。</p> <p>■なっている</p> <p>□なっていない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇過去 5 年間の貸借対照表等の財務諸表</p> <p>資料 4-1-①-(1)-1、P333「貸借対照表 平成 25 年度」</p> <p>資料 4-1-①-(1)-2、P341「貸借対照表 平成 26 年度」</p> <p>資料 4-1-①-(1)-3、P349「貸借対照表 平成 27 年度」</p> <p>資料 4-1-①-(1)-4、P357「貸借対照表 平成 28 年度」</p> <p>資料 4-1-①-(1)-5、P365「貸借対照表 平成 29 年度」</p> <p>◇長期未払金、長期借入金がある場合は、その内容を確認できる資料</p> <p>◇臨時利益又は臨時損失が計上されている場合は、その内容が確認できる資料</p> <p>資料 4-1-①-(1)-6、P373「損益計算書 平成 25 年度」</p> <p>資料 4-1-①-(1)-7、P382「損益計算書 平成 26 年度」</p> <p>資料 4-1-①-(1)-8、P391「損益計算書 平成 27 年度」</p> <p>資料 4-1-①-(1)-9、P400「損益計算書 平成 28 年度」</p>

	<p>年度」 資料 4-1-①-(1)-10、P409「損益計算書 平成 29 年度」</p>
<p>(2) 校地、校舎等の資産を保有しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 保有している <input type="checkbox"/> 保有していない</p>	<p>◇その内容を確認できる資料 資料 4-1-①-(2)-1、P418「団地概要」</p>
<p>(3) 過去 5 年間に於いて運営費交付金、授業料、入学金、検定料等の経常的な収入を確保しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 確保している <input type="checkbox"/> 確保できない年があった</p>	<p>◇過去 5 年間の運営費交付金、授業料、入学金、検定料等の収入状況 資料 4-1-①-(3)-1、P420「決算報告書 平成 25 年度」 資料 4-1-①-(3)-2、P422「決算報告書 平成 26 年度」 資料 4-1-①-(3)-3、P424「決算報告書 平成 27 年度」 資料 4-1-①-(3)-4、P426「決算報告書 平成 28 年度」 資料 4-1-①-(3)-5、P428「決算報告書 平成 29 年度」 ◆確保できない年があった場合は、実状を踏まえて、資料を基に記述する。</p>
<p>(4) 過去 5 年間の収支状況において支出超過となっていないか。 <input checked="" type="checkbox"/> 支出超過となっていない <input type="checkbox"/> 支出超過となった年があった</p>	<p>◇過去 5 年間の資金収支計算書及び消費収支計算書 資料 4-1-①-(4)-1、P430「資金収支計算書及び消費収支計算書 平成 25 年度」 資料 4-1-①-(4)-2、P434「資金収支計算書及び消費収支計算書 平成 26 年度」 資料 4-1-①-(4)-3、P438「資金収支計算書及び消費収支計算書 平成 27 年度」 資料 4-1-①-(4)-4、P442「資金収支計算書及び消費収支計算書 平成 28 年度」 資料 4-1-①-(4)-5、P446「資金収支計算書及び消費収支計算書 平成 29 年度」 ◆支出超過となった年があった場合は、実状を踏まえて、資料を基に記述する。</p>
<p>観点 4-1-② 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p>	

<input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 収支に係る方針、計画等を策定しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 策定している <input type="checkbox"/> 策定していない	◇収支に係る方針や計画策定に関する予算関連規程等 資料4-1-②-(1)-1、P450「学内当初予算配分方針」 ◇予算配分や収支に係る方針、計画等がわかる資料 資料4-1-②-(1)-2、P451「当初予算配分」
(2) (1)を関係者（教職員等）へ明示しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 明示している <input type="checkbox"/> 明示していない	◇予算の関係者（教職員等）への明示状況を把握できる資料 （再掲）資料4-1-②-(1)-1、P450「学内当初予算配分方針」、資料4-1-②-(1)-2、P451「当初予算配分」は、運営会議において審議、承認されており、本校イントラネット上に運営会議議事録の一部として掲載している。
観点4-1-③ 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対しての資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。	
【留意点】 ○ 予算配分の方針が定められ、その方針に則り実際の予算配分が行われているか、プロセス（手続きの流れ）の適切性も含めて分析すること。 ○ 予算の配分状況と、その実績（執行状況）を対比させて分析すること。 ○ 校長裁量経費等の重点配分経費の配分基準等の策定状況（手続き、経路、決定機関等。）についても併せて分析すること。	
関係法令	(設)第27条の2
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校の目的を達成するために、教育研究活動に対して適切な資源配分を決定する際、明確なプロセスに基づいて行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	◇予算配分実績(教育経費、研究経費、施設設備費の配分実績) 資料4-1-③-(1)-1、P453「当初配分概要」 ◇校長裁量経費等の重点配分経費を設定している場合は、その資源配分が把握できる資料 資料4-1-③-(1)-2、P454「校長裁量経費等の重点配分」 資料4-1-③-(1)-3、P456「教育研究活性化経費配分一覧」 ◇予算関連規程等 規程等はないが、資料4-1-②-(1)-1、P450「学

	<p>内当初予算配分方針(再掲)を毎年運営会議に諮り、審議している。</p> <p>◇予算配分に係る審議状況がわかる資料（議事録等） 資料4-1-③-(1)-4、P457「運営会議議事要録」</p> <p>◇施設・設備の整備計画の全体像がわかる資料（学内全体のマスタープラン等。） 資料4-1-③-(1)-5、P458 設備整備マスタープラン」 資料4-1-③-(1)-6、P459「キャンパスマスタープラン」 資料4-1-③-(1)-7、P466「施設設備マネジメント委員会議事録」</p>
<p>(2) 資源配分が、4-1-②の収支に係る方針、計画と整合性を有しているか。</p> <p>■整合性がある</p> <p>□整合性がない</p>	<p>◆資源配分と収支に係る方針、計画との整合性、執行状況との対応について、資料を基に記述する。その際、資源配分の決定プロセスの整合性についても言及する。</p> <p>予算配分方針・配分額は、資料4-1-②-(1)-1、P450「学内当初予算配分方針」(再掲)に基づき、運営費交付金と収入予算をもとに前年度実績及び当該年度の必要経費を勘案し、校長・副校長等で構成される企画会議で立案、資料4-1-②-(1)-2、P451「当初予算配分」及び資料4-1-③-(1)-1、P453「当初配分概要」(再掲)のとおり、運営会議で予算配分計画を審議する。予算配分計画は運営会議委員を通じ、各学科会議で関係教員へ周知される。</p> <p>学校運営に不可欠な管理運営経費等を含む共通経費、建物・設備を維持する教育等施設基盤経費、運営費交付金算定ルール及び機構配分額に基づく学科等教育研究経費・教育研究設備維持運営費・高専教育充実設備費、要求額等を精査して配布される学校施設運営費及び校長裁量経費の7項目に分類し配分される。配分された予算は、財務会計システムにて適正に執行管理が行われる。資料4-1-③-(2)-1、P467「教職員へ明示している決算概要等(運営会議議事録とともに教職員へ公開)」</p> <p>特に、高専教育充実設備費は、各学科・センター・事務部からの要求を取りまとめ、順位を付したうえで、運営会議で審議承認を得て執行するプロセスにより、効率的・効果的な設備等の充実を図っている。</p> <p>校長裁量経費は、政策的経費として校長の判断により必要な経費を適宜執行できる仕組みを構築しており、入学料及び入学検定料、授業料等の学生納付金の自己収入確保のた</p>

	め、教員による入試説明会等広報活動に対し入学志願者確保対策費を計上、平成 29 年度も安定的な受験者数及び経常的收入が確保された。また、学術的価値が高く、科研費等の外部資金獲得につながる研究支援を目的に教育研究活性化経費を計上、申請数・採択数とも向上が見られた。 資料 4-2-③-(1)-5、P514「外部の財務資源の受入実績に関する資料（科研費以外の外部資金）」
(3) 資源配分の内容について、関係者（教職員等）に明示しているか。 ■明示している □明示していない	◇予算の関係者（教職員等）への明示状況を把握できる資料 資料 4-1-③-(2)-1、P467「教職員へ明示している決算概要等（運営会議議事録とともに教職員へ公開）（再掲）」
観点 4-1-④ 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。	
【留意点】 ○ 設置者の説明責任を果たすという観点から、財務書類の公表状況について分析すること。 ○ 会計監査の実施状況についても分析すること。	
関係法令	独立行政法人通則法第 38 条、第 39 条 私立学校法第 47 条 私立学校振興助成法第 14 条 その他財務諸表に関する各種法令等 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律施行令第 12 条 その他情報公開に関する法令等、それぞれの設置形態別に定められた法令 私立学校法第 37 条第 3 項 私立学校振興助成法第 14 条第 3 項 地方自治法第 199 条 その他会計監査等に関する各種法令等
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 設置者は、法令等に基づき、財務諸表等を作成・公表しているか。 ■作成・公表している □作成・公表していない	◇作成・公表状況がわかる資料 資料 4-1-④-(1)-1、P473「設置者の財務諸表等作成・公表状況がわかる資料」 http://www.kosen-k.go.jp/disclosure.html#zaimu_shohyo
(2) 財務に係る監査等を実施しているか。 ■実施している □実施していない	◇学内会計監査規程（科学研究費助成事業等の外部資金に関する監査規程も含む。） 資料 4-1-④-(2)-1、P474「学内会計監査規程」 ◇外部監査、学内監査の監査報告書、国立高等専門学校の場合は、国立高等専門学校間の相互監査報告書 資料 4-1-④-(2)-2、P475「国立高等専門学校間の相互監査報告書」
4-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

該当なし	
評価の視点	
4-2 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。	
観点4-2-① 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	
【留意点】	
○ 観点2-1-③の教育に係る組織等を除き、管理運営に係る体制について、分析すること。	
○ 組織図については、観点2-1-③の教育に係る組織等を含む、学校全体の教育研究及び管理運営全体がわかるものの提示が望ましい。	
○ 議事録又は議事要旨等については、過去1年分提示すること。	
関係法令	(法)第120条第3項 (施)第175条 (設)第10条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。	
■満たしていると判断する	
□満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 管理運営体制に関する規程等を整備しているか。 ■整備している □整備していない	◇管理運営に関する諸規程、整備状況がわかる資料 資料4-2-①-(1)-1、P476「管理運営に関する諸規程」 資料4-2-①-(1)-2、P479「管理運営体制の整備状況がわかる資料（組織図）」 http://www.akashi.ac.jp/guide/organization 資料4-2-①-(1)-3、P480「管理運営体制の整備状況がわかる資料（校務分担）」 資料4-2-①-(1)-4、P483「管理運営体制の整備状況がわかる資料（校務合理化）」
(2) 委員会等の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	◇諸規程、整備状況がわかる資料（組織図等） 資料4-2-①-(2)-1、P484「委員会等諸規程」 資料4-2-①-(2)-2、P486「委員会等の整備状況がわかる資料(組織図)」
(3) 校長、主事等の役割分担が明確になっているか。 ■なっている □なっていない	◇役割分担がわかる資料 資料4-2-①-(3)-1、P487「校長、主事等の役割分担がわかる資料」
(4) 事務組織の体制を規程等に基づき整備しているか。 ■整備している □整備していない	◇規程等、整備状況がわかる資料 資料4-2-①-(4)-1、P488「事務組織規程」 資料4-2-①-(1)-2、P479「管理運営体制の整備状況がわかる資料（組織図）(再掲)」 http://www.akashi.ac.jp/guide/organization

<p>(5) (1)～(4)の体制の下、効果的な活動を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◇活動状況がわかる資料（会議の開催回数、議事録等。）</p> <p>資料4-2-①-(5)-1、P490「会議・委員会等の会議開催状況」</p> <p>資料4-2-①-(5)-2、P491「管理運営体制の活動状況がわかる資料（議事録）」資料が大量となるため、1回の運営会議議事要録のみを資料としており、その他議事録等については訪問調査時に提示する。</p>
<p>観点4-2-② 危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校として、責任の所在を明確にした危機管理を含む安全管理体制を整備しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 整備している</p> <p><input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇規程等、整備状況がわかる資料</p> <p>資料4-2-②-(1)-1、P493「危機管理規程」</p> <p>資料4-2-②-(1)-2、P495「安全管理体制に関する規程等整備状況」</p>
<p>(2) 危機管理マニュアル等を整備しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 整備している</p> <p><input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇危機管理マニュアル等の資料</p> <p>資料4-2-②-(2)-1、P497「危機管理マニュアル」</p> <p>資料4-2-②-(2)-2、P500「災害時における『業務対応マニュアル』及び『防災マニュアル』」</p> <p>資料4-2-②-(2)-3、P503「安全管理マニュアル」</p>
<p>(3) (1)(2)に基づき、定期的に訓練を行うなど、危機に備えた活動を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◇訓練や講習会等の実施状況がわかる資料</p> <p>資料4-2-②-(3)-1、P507「訓練や講習会等の実施状況がわかる資料」</p>
<p>観点4-2-③ 外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。</p>	
<p>【留意点】</p>	
<p>○ 過去5年間の外部資金について、明確な獲得方策（獲得のための取組。）を有するか、十分な獲得実績があるか等について、分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 外部の財務資源（科学研究費助成事業による外部資金、受託研究、共同研究、受託試験、奨学寄附金、同窓会等からの寄付金等）を積極的に受入れる取組を行っているか。</p>	<p>◇過去5年間の科学研究費助成事業による外部資金、受託研究、共同研究、受託試験、奨学寄附金、同窓会等からの寄付金等、外部の財務資源の受入れへの取組及び受入実績に関する資料</p>

<p>■行っている □行っていない</p>	<p>資料4-2-③-(1)-1、P510「外部の財務資源の受入への取組に関する資料（教育活性化経費①）」 資料4-2-③-(1)-2、P511「外部の財務資源の受入への取組に関する資料（教育活性化経費②）」 資料4-2-③-(1)-3、P512「外部の財務資源の受入への取組に関する資料（科研アドバイザー）」 資料4-2-③-(1)-4、P513「外部の財務資源の受入実績に関する資料（科学研究費助成事業）」 資料4-2-③-(1)-5、P514「外部の財務資源の受入実績に関する資料（科学研究費助成事業以外の外部資金）」</p>
<p>(2) 公的研究費を適正に管理するシステムが整備されているか。 ■整備されている □整備されていない</p>	<p>◇管理体制がわかる資料（規程等） 資料4-2-③-(2)-1、P515「公的研究費の管理体制がわかる資料」</p>
<p>観点4-2-④ 外部の教育資源を積極的に活用しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高等専門学校の教育研究の基盤としての、地域や同窓会等を中心とする外部教育資源、又は退職技術者を含む企業人等の教育研究的資源の活用について分析すること。 ○ 「社会とともに次世代の技術者を育成する」協働教育の理念を実践する活動例について分析すること。 ○ 財務的資源については、観点4-2-③で分析し、ここでは教育資源、研究的資源について分析すること。 ○ 提示する資料の例としては、次のものを想定している。（全ての取組を求めているものではない。） <ul style="list-style-type: none"> ・ 高等教育機関の間で締結している学生・教員交流等、外部の機関の持つ教育力の活用例の資料（協定等を含む。） ・ 産学連携関係の共同研究や共同教育の実施例の資料 ・ 地域や同窓会等の有識者や経験者による授業、実習、課外活動等の指導支援に関する資料 ・ 地域にある教育設備（図書館、博物館等。）、体育施設の利用及び支援がわかる資料 ・ 地域の催事等を含む地域社会との交流体験実施例の資料 	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 外部の教育・研究資源を活用しているか。 ■活用している □活用していない</p>	<p>◇活用状況がわかる資料 資料4-2-④-(1)-1、P517「高等教育機関との協定（国内）」 http://www.akashi.ac.jp/partnership-and-contribution/af/filiatedschool 資料4-2-④-(1)-2、P518「高等教育機関との協定（海外）」 http://www.akashi.ac.jp/partnership-and-contribution/o</p>

	<p>verseas</p> <p>資料4-2-④-(1)-3、P519「外部の教育・研究資源の活用状況がわかる資料（共同研究）」</p> <p>資料4-2-④-(1)-4、P522「外部の教育・研究資源の活用状況がわかる資料（学外授業）」</p> <p>資料4-2-④-(1)-5、P526「外部の教育・研究資源の活用状況がわかる資料（各種講演会）」</p> <p>資料4-2-④-(1)-6、P527「外部の教育・研究資源の活用状況がわかる資料（外部コーチ）」</p> <p>資料4-2-④-(1)-7、P528「地域の体育施設利用がわかる資料①」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/life/activity/athletic/athletic53</p> <p>資料4-2-④-(1)-8、P529「地域の体育施設利用がわかる資料②」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/life/activity/athletic/athletic54inkink</p>
<p>観点4-2-⑤ 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組（スタッフ・ディベロップメント）が組織的に行われているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ ファカルティ・ディベロップメントに関連した教育の質の向上や授業の改善に関する教育支援者に対する取組は観点2-4-③で分析するため、ここでは、スタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）への取組を分析すること。</p> <p>○ SDとは、事務職員等のほか、教授等の教員や校長等の執行部に対し、教育研究活動等の効果的な運営を図るため、必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させるための研修（管理運営等の研修）のことをいう。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>（設）第10条の2</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) SD等を実施しているか。</p> <p>■実施している</p> <p>□実施していない</p>	<p>◇規程等の資料</p> <p>資料4-2-⑤-(1)-1、P530「SD等実施に関する規程等（高専機構規則）」</p> <p>資料4-2-⑤-(1)-2、P532「SD等実施に関する年度計画」</p> <p>◇実施状況（参加状況等）がわかる資料</p> <p>資料4-2-⑤-(1)-3、P533「SD等実施・参加状況一覧」</p>

<p>4-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点</p>	
<p>4-3 学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。</p>	
<p>観点4-3-① 学校における教育研究活動等の状況についての情報（学校教育法施行規則第172条の2に規定される事項を含む。）が公表されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 高等専門学校の教育研究活動の状況や、その活動の成果に関する情報を、わかりやすい表現やアクセスしやすい手段を用いて、社会に発信しているか分析すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(施)第172条の2、(施)第165条の2、学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行について（通知）22文科高第236号平成22年6月16日</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>■高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針</p> <p>■教育研究上の基本組織</p> <p>■教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績</p> <p>■入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況</p> <p>■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画</p> <p>■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たったの基準</p> <p>■校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境</p> <p>■授業料、入学料その他の高等専門学校が徴収する費用</p> <p>■高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援</p>	<p>◇刊行物の該当箇所がわかる資料</p> <p>資料4-3-①-(1)-1、P534「教育情報の刊行物の該当箇所一覧」（「各教員が有する業績」及び「授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画」の個別の内容は、刊行物への記載は省略し、本校ホームページにのみ「研究者総覧」「シラバス」として掲載している。）</p> <p>◇【別添】ウェブサイト掲載項目チェック表</p>
<p>(2) 特に、高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針</p>	<p>◇周知状況がわかる資料</p> <p>資料4-3-①-(2)-1、P535「教育目的及び三方針に</p>

について、学校内の構成員への周知を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	係る学校内構成員への周知状況がわかる資料
4-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
該当なし	

基準 4

優れた点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算配分方針・配分額案及び追加配分額案については、企画会議・運営会議での議を経て校長が最終決定する仕組みとなっており、科内会議・イントラネット等で教職員にも明示され、計画的に執行されている。 ・ 校務を教務・学生・寮務・専攻科及び学級担任に大きく分類し、三主事、専攻科長及びクラス経営主幹の役職者の下に主事団等を形成、教員が重複しないよう配置し、各種委員会業務を含む校務を担う体制としている。この体制によって、委員会間の調整業務を削減することにより校務の合理化を図るねらいである。 ・ 事務組織においては、ワークライフバランスを重視した取り組みの一環として、係を統合したチーム制としている。
改善を要する点
特になし

基準5 準学士課程の教育課程・教育方法

<p>評価の視点</p> <p>5-1 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。</p>	
<p>観点5-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点1-2-②の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。</p>	
<p>関係法令 (設)第15条、第16条、第17条、第17条の2</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。</p> <p>■配置している □配置していない</p>	<p>◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料</p> <p>資料5-1-①-(1)-1、P536「授業科目配置状況が明示されている資料」</p>
<p>(2) 一般教育の充実に配慮しているか。</p> <p>■配慮している □配慮していない</p>	<p>◇配慮していることがわかる資料</p> <p>資料5-1-①-(2)-1、P548「一般教育の充実が明示されている資料」</p>
<p>(3) 進級に関する規定を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇進級に関する規定の整備状況がわかる資料</p> <p>資料5-1-①-(3)-1、P553「進級規定の整備状況が明示されている資料」</p>
<p>(4) 1年間の授業を行う期間を定期試験等の期間を含め、35週確保しているか。</p> <p>■確保している □確保していない</p>	<p>◇35週が確保されている状況が確認できる資料（学年暦、時間割等。）</p> <p>資料5-1-①-(4)-1、P555「授業時間35週を確保している状況が確認できる資料」</p>
<p>(5) 特別活動を90単位時間以上実施しているか。</p> <p>■実施している □実施していない</p>	<p>◇特別活動の実施状況がわかる資料（時間割等。）</p> <p>資料5-1-①-(5)-1、P557「特別活動の実施状況が明示されている資料」</p>
<p>観点5-1-② 教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 例えば、国際的に活躍できる技術者の養成が目的に含まれる場合には、外国語の伝達と読解の基礎能力育成について分析するなど、目的や卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして授業科目の内容の工夫を行っているか分析すること。</p> <p>○ この観点では教育課程の編成について分析するものであり、正規の教育課程とは別に実施しているもの（例えば、</p>	

補習や補講等。)は、この観点の対象ではないことに留意すること。	
関係法令	(設)第 19 条、第 20 条
観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。 <input checked="" type="checkbox"/> 他学科の授業科目の履修を認定 <input checked="" type="checkbox"/> インターンシップによる単位認定 <input type="checkbox"/> 正規の教育課程に関わる補充教育の実施 <input type="checkbox"/> 専攻科課程教育との連携 <input checked="" type="checkbox"/> 外国語の基礎能力(聞く、話す、読む、書く)の育成 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得に関する教育 <input checked="" type="checkbox"/> 他の高等教育機関との単位互換制度 <input checked="" type="checkbox"/> 個別の授業科目内での工夫 <input type="checkbox"/> 最先端の技術に関する教育 <input type="checkbox"/> その他	◇チェックした配慮項目に関して、実施状況がわかる資料 資料 5-1-②-(1)-1、P564「他学科授業科目の履修認定が明示されている資料」 資料 5-1-②-(1)-2、P566「インターンシップによる単位認定が明示されている資料」 資料 5-1-②-(1)-3、P569「外国語基礎能力の育成が明示されている資料」 資料 5-1-②-(1)-4、P577「資格取得に関する教育が明示されている資料」 資料 5-1-②-(1)-5、P583「他の高等教育機関との単位互換制度が明示されている資料」 資料 5-1-②-(1)-6、P593「個別の授業科目内での工夫が明示されている資料」 ◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。
(2) 他の高等教育機関との単位互換制度を設けている場合、法令に従い適切に取り扱っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 適切に取り扱っている <input type="checkbox"/> 適切に取り扱っていない <input type="checkbox"/> 単位互換制度を設けていないので、該当しない	◇単位互換制度の内容がわかる資料 資料 5-1-②-(2)-1、P598「他の高等教育機関との単位互換制度の内容が明示されている資料」
観点 5-1-③ 創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。	
【留意点】 ○ 創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料には、PBL型の授業や創造型の演習等における具体的な教育方法の工夫がわかる資料を提示すること。 ○ 創造力を育む教育方法の工夫については、学校としてどう捉え、どう展開しているかを踏まえて分析すること。 ○ 実践力を育む教育方法の工夫がわかる資料には、インターンシップの活用等の具体的な教育方法の工夫がわかる資料を提示すること。 (注) PBLとは、プロジェクト課題を学生にグループ単位で与え、その課題を達成するためのアイデアの創出、計画立案、実現等を学生自身に遂行させることにより、学生の学習意欲、知識の活用能力、計画立案・遂行能力、ディベート能力、プレゼンテーション能力、組織運営能力等の向上を図るための学習・教育の方法のこと。 Problem-based Learning 又は Project-based Learning の略。	
観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)	

<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>◇創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料（PBL型の授業や創造型の演習の実施等）</p> <p>資料5-1-③-(1)-1、P599「創造力教育の工夫が明示されている資料」</p> <p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>資料5-1-③-(1)-2、P603「創造力教育の実施状況が明示されている資料」</p> <p>◆工夫を行った結果、学生が創造力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。</p> <p>H29年度の学生の受賞実績の一覧を資料5-1-③-(1)-3、P611「創造力教育の成果や効果が明示されている資料」に示す。多くのコンテストや学会活動での受賞実績があり、本校の創造力教育の成果が確認できる。</p>
<p>(2) 実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>◇実践力を育む教育方法の具体的な工夫がわかる資料（インターンシップの実施等。）</p> <p>資料5-1-③-(2)-1、P612「実践力教育の工夫が明示されている資料」</p> <p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>資料5-1-③-(2)-2、P621「実践力教育の実施状況が明示されている資料」</p> <p>◆工夫を行った結果、学生が実践力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。</p> <p>本校で実施したPROGテストの結果と卒業生の進路状況を資料5-1-③-(2)-3、P629「実践力教育の成果や効果が明示されている資料」に示す。結果より、本校学生のコンピテンシー（対人基礎力、對自己基礎力、対課題基礎力）は年々向上し、4年生の時点で国立大学理系1年生や他高専4年生よりも高いコンピテンシーを持っていることが確認できる。また、進路状況から、本校学生が企業や大学等から高く評価されていることが分かる。</p>
<p>5-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点</p>	

<p>5-2 準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。</p>	
<p>観点5-2-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第17条の2</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。</p> <p>■採用されている</p> <p>□採用されていない</p>	<p>◇授業形態の開講状況（バランスを含む。）がわかる資料 資料5-2-①-(1)-1、P635「授業形態の開講状況が明示されている資料」</p> <p>◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。</p> <p>資料5-2-①-(1)-1、P635「授業形態の開講状況が明示されている資料」(再掲)には、本校の教育課程が示されており、一般科目と専門科目のバランスはいわゆるくさび形となっている。また、高学年には選択科目が配置されている。また、同資料には、専門細目分野別科目系統が示されており、各分野別に基礎から応用へ段階的に科目が配置され、専門性に照らした体系性をもった教育課程となっている。また、教育目的には養成する技術的能力として「(2) 柔軟な問題解決能力」と「(3) 実践的な技術力」が掲げられている。この目的に沿って、全学科ともに、実験・実習・演習・製図・卒業研究などの実技系科目が、学年ごとに配置されている。</p>
<p>(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>■教材の工夫</p> <p>■少人数教育</p> <p>■対話・討論型授業</p> <p>■フィールド型授業</p> <p>■情報機器の活用</p> <p>□基礎学力不足の学生に対する配慮</p> <p>■一般科目と専門科目との連携</p> <p>□その他</p>	<p>◇チェックした項目の実施状況がわかる資料</p> <p>資料5-2-①-(2)-1、P642「教材の工夫が明示されている資料」</p> <p>資料5-2-①-(2)-2、P650「少人数教育の実施状況が明示されている資料」</p> <p>資料5-2-①-(2)-3、P654「対話・討論型授業の実施状況が明示されている資料」</p> <p>資料5-2-①-(2)-4、P660「フィールド型授業の実施状況が明示されている資料」、</p> <p>資料5-2-①-(2)-5、P664「情報機器の活用状況が明示されている資料」</p> <p>資料5-2-①-(2)-6、P665「一般科目と専門科目</p>

	<p>との連携が明示されている資料」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>観点5-2-② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第17条、第17条の3</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて適切に設定された項目に基づきシラバスを作成しているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>■授業科目名</p> <p>■単位数</p> <p>■授業形態</p> <p>■対象学年</p> <p>■担当教員名</p> <p>■達成目標</p> <p>■教育方法</p> <p>■教育内容（1授業時間ごとに記載）</p> <p>■成績評価方法・基準</p> <p>■事前に行う準備学習</p> <p>■高等専門学校設置基準第17条第3項の規定に基づく授業科目か、4項の規定に基づく授業科目かの区別の明示</p> <p>■教科書・参考文献</p> <p>□その他</p>	<p>◇シラバスの作成要領や具体例等の左記内容がわかる資料</p> <p>資料5-2-②-(1)-1、P669「シラバスの作成要領やシラバスの各項目が明示されている資料」</p> <p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容（項目）を記述する。</p>
<p>(2) 教員及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っているか。</p> <p>■改善を行っている</p> <p>□改善を行っていない</p>	<p>◇活用状況がわかる資料</p> <p>資料5-2-②-(2)-1、P675「教員及び学生のシラバスの活用状況が明示されている資料」</p> <p>◆改善を行った事例があれば、改善内容について、資料を基に記述する。</p> <p>資料5-2-②-(2)-2、P678「シラバスの改善状況が明示されている資料」には、授業点検書が示されており、シラバス記載の評価方法や各週の授業内容を学生に説明</p>

	<p>し、実行・点検することが求められている。また、同資料には、学生による授業アンケートが示されており、シラバスどおりに授業が行われたかを問う設問が設けられている。さらに、FD委員によるシラバス点検作業が行われ、各シラバスの内容が一定の水準を保っているかがチェックされている。毎年、各科目担当教員は、以上の点検結果に基づいて、シラバスの改善を行っている。なお、学科のシラバスについては、平成30年度より国立高等専門学校機構が展開しているwebシラバスに対応している。</p>
<p>(3) 設置基準17条第3項の30単位時間授業では1単位当たり30時間を確保しているか。</p> <p>■確保している □確保していない</p>	<p>◇状況が確認できる資料（学年暦、時間割等。） 資料5-2-②-(3)-1、P682「30単位時間授業の授業時間を確保していることが明示されている資料」</p>
<p>(4) (3)の30単位時間授業では、1単位時間を50分としているか。</p> <p>□1単位時間=50分で規定・運用 ■1単位時間=50分で規定、45分で運用</p>	<p>◆1単位時間を50分以外で運用している場合は、標準50分に相当する教育内容を確保していることについて、学校の現状を踏まえ、資料を基に記述する。 資料5-2-②-(4)-1、P684「1単位時間(標準50分)に相当する教育内容を確保していることが明示されている資料」のように90分(45分×2)の授業時間で運用している。これにより、出欠確認、教材や機器等の準備・後片付け作業が1度で済み、標準50分×2に相当する教育内容を確保している。</p>
<p>(5) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合には、授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、1単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて45時間であることを明示しているか。</p> <p>■明示している □明示していない</p>	<p>◇シラバス集、履修要項等の明示状況がわかる資料 資料5-2-②-(5)-1、P685「学修単位科目の履修時間が明示されている資料」</p>
<p>(6) (5)の履修時間の実質化のための対策としてどのような方策を講じているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>■授業外学習の必要性の周知 ■事前学習の徹底 ■事後展開学習の徹底 ■授業外学習の時間の把握 □その他</p>	<p>◇チェックした方策の具体的な内容がわかる資料 資料5-2-②-(6)-1、P687「授業外学習の必要性の周知が明示されている資料」、 資料5-2-②-(6)-2、P689「事前学習の徹底が明示されている資料」、 資料5-2-②-(6)-3、P690「事後展開学習の徹底が明示されている資料」、 資料5-2-②-(6)-4、P691「授業外学習の時間の把握が明示されている資料」 ◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。</p>

<p>5-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点</p>	
<p>5-3 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。</p>	
<p>観点5-3-① 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第17条の3</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。</p> <p>■策定している</p> <p>□策定していない</p>	<p>◇成績評価や単位認定に関する規程等の該当箇所</p> <p>資料5-3-①-(1)-1、P693「成績評価や単位認定に関する規程等が明示されている資料」</p>
<p>(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわかる資料</p> <p>資料5-3-①-(2)-1、P695「成績評価が適切に実施されていることが明示されている資料」</p>
<p>(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。</p> <p>■把握している</p> <p>□把握していない</p>	<p>◇学校として把握していることがわかる資料</p> <p>資料5-3-①-(3)-1、P698「授業時間以外の学修がシラバスどおりに評価されていることが明示されている資料」</p>
<p>(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。</p> <p>■周知している</p> <p>□周知していない</p>	<p>◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料</p> <p>資料5-3-①-(4)-1、P703「成績評価・単位認定基準の周知を図る取組が明示されている資料」</p>
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p>	<p>◇認知状況がわかる資料</p> <p>資料5-3-①-(5)-1、P706「成績評価・単位認定</p>

<p><input checked="" type="checkbox"/>把握している <input type="checkbox"/>把握していない</p>	<p>基準に対する学生の認知状況が明示されている資料」</p>
<p>(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。 <input checked="" type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない</p>	<p>◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料 資料5-3-①-(6)-1、P709「追試・再試の成績評価の規程等が明示されている資料」</p>
<p>(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 <input checked="" type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない</p>	<p>◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規程等がわかる資料 資料5-3-①-(7)-1、P714「成績評価結果に関する学生からの意見申立ての機会が明示されている資料」</p>
<p>(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック<input checked="" type="checkbox"/>する。)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>成績評価の妥当性の事後チェック <input checked="" type="checkbox"/>答案の返却 <input checked="" type="checkbox"/>模範解答や採点基準の提示 <input checked="" type="checkbox"/>GPAの進級判定への利用 <input checked="" type="checkbox"/>成績分布のガイドラインの設定 <input checked="" type="checkbox"/>複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック <input checked="" type="checkbox"/>試験問題のレベルが適切であることのチェック <input type="checkbox"/>その他</p>	<p>◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に記述する。</p> <p>資料5-3-①-(8)-1、P717「成績評価の妥当性の事後チェックが明示されている資料」は指導連絡会議資料を示しており、教員相互が各科目の成績評価の点検を行っている。資料5-3-①-(8)-2、P718「答案の返却が明示されている資料」及び資料5-3-①-(8)-3、P719「模範解答や採点基準が明示されている資料」は授業点検書を示しており、シラバス通りの成績評価、成績評価の根拠資料の保存、答案返却の状況を確認している。資料5-3-①-(8)-4、P720「GPAの進級判定への利用が明示されている資料」はGPA精度に関する規程を示しており、成績評価の透明性を高めて、学生の学習意欲と教育の質の向上を図っている。資料5-3-①-(8)-5、P722「成績分布のガイドラインの設定が明示されている資料」は成績評価の事務手続きに関する事項を示しており、各科目の平均点の差が極端に大きくならないよう配慮している。資料5-3-①-(8)-6、P723「複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェックが明示されている資料」は授業点検書及び授業点検チェックシートを示しており、成績評価の根拠資料の保存状況、試験及びその評価方法は適切であるか等の項目を確認している。資料5-3-①-(8)-7、P724「試験問題のレベルが適切であることのチェックが明示されている資料」は指導連絡会議資料及び授業点検チェックシートを示しており、各科目の成績評価の平均点、試験及びその評価方法は適切であるか等の項目を通して、試験問題のレベルを確認している。</p> <p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記</p>

	述する。
<p>観点5-3-② 卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
関係法令	(法)第117条 (設)第17条第3~6項、第17条の2、第17条の3、第18条、第19条、第20条
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学則等に、修業年限を5年（商船に関する学科は5年6月。）と定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇学則等の該当箇所がわかる資料</p> <p>資料5-3-②-(1)-1、P726「修業年限を5年と定めている資料」</p>
<p>(2) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、卒業認定基準を定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇定めている該当規程や卒業認定基準</p> <p>資料5-3-②-(2)-1、P727「ディプロマポリシーに基づいた卒業認定基準が明示されている資料」</p>
<p>(3) 卒業認定基準に基づき、卒業認定しているか。</p> <p>■認定している</p> <p>□認定していない</p>	<p>◇関係する委員会等の会議資料</p> <p>資料5-3-②-(3)-1、P732「卒業認定基準に基づいて卒業認定していることが明示されている資料」</p>
<p>(4) 卒業認定基準を学生に周知しているか。</p> <p>■周知している</p> <p>□周知をしていない</p>	<p>◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料</p> <p>資料5-3-②-(4)-1、P734「卒業認定基準の周知を図る取組が明示されている資料」</p>
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p>■把握している</p> <p>□把握をしていない</p>	<p>◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料</p> <p>資料5-3-②-(5)-1、P736「卒業認定基準に対する学生の認知状況が明示されている資料」</p>
<p>5-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	

基準5

<p>優れた点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性を涵養するために、ホームルーム活動（1～3年）や様々な学校行事が特別活動として実施されている。 ・学生の設計能力や問題解決能力を育むために、創造性教育科目が全学科に配置され、学科の専門性と対象学年に応じて適切な指導が実施されている。その結果、学生の学外活動（学術講演会やコンテスト）も盛んとなり、多くの成果が上がっている。
--

明石工業高等専門学校

- ・ 自立・協働・創造をテーマにした「Co+Work」や就業体験を行うインターンシップ科目が開設され、学生の実践力が確実に育成されている。
- ・ 授業において、様々な課題テーマを少人数で取組ませることで学生の理解を深めるとともに、自立、協働、創造性の涵養を図っている。

改善を要する点

特になし

基準6 準学士課程の学生の受入れ

<p>評価の視点</p> <p>6-1 入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。</p>	
<p>観点6-1-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 合否判定基準については、提示できるものがあれば、提示すること。自己評価書での提示が不可能な場合は、訪問調査時に提示すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第3条の2</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等。）となっているか。</p> <p>■なっている</p> <p>□なっていない</p>	<p>◇入学者選抜要項、面接要領、合否判定基準、入学試験実施状況等がわかる資料</p> <p>資料6-1-①-(1)-1、P738「平成30年度学生募集要項」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2017/09/b53398e7a45e7195d6b6874ac937d947.pdf</p> <p>資料6-1-①-(1)-2、学校説明会スライド（訪問調査時資料）</p> <p>資料6-1-①-(1)-3、推薦選抜選考要綱（訪問調査時資料）</p> <p>資料6-1-①-(1)-4、学力選抜選考要綱（訪問調査時資料）</p> <p>資料6-1-①-(1)-5、面接担当者留意事項（訪問調査時資料）</p>
<p>観点6-1-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p>	<p>◇検証する体制に関する資料</p> <p>資料6-1-②-(1)-1、P749「アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかを検証し、入学者選</p>

<p><input type="checkbox"/>整備していない</p>	<p>抜の改善に役立てる体制」 資料6-1-②-(1)-2、P750「教務委員会規程」 資料6-1-②-(1)-3、P751「入学志願者確保委員会規則」 ◇改善に役立てる体制に関する資料 資料6-1-②-(1)-4、P752「運営会議規則」</p>
<p>(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>行っている <input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◇検証を行っていることがわかる資料 資料6-1-②-(2)-1、-3、-5、-7、-9、入学試験における調査書と学力検査等の関連に関する報告H26～H30（訪問調査時資料） 資料6-1-②-(2)-2、-4、-6、-8、-10、入試総括図：図1入試志願者の動向、図2合格者の調査書（9教科）の点数割合、図3合格者の調査書点数分布、図4学力入試合格者の調査書と学力入試点数の関係、図5前年度入学生の中学校3年調査書と高専1年次学年末全教科平均点、図6前年度入学生の面接点・中学校の特別活動と高専1年次学年末全教科平均点、図7前年度学力試験入学生の学力試験結果と高専1年次学年末の成績、図8前年度入学生調査書（9教科）と高専1年次学年末順位：H26～H30（訪問調査時資料） 資料6-1-②-(2)-11、入試分析_可否（推薦選抜調査書評価点分布、学力選抜学力検査・調査書点数分布）_H21～H30（訪問調査時資料） 資料6-1-②-(2)-12、入試分析_調査書評価点分布_H25～H30（訪問調査時資料） 資料6-1-②-(2)-13、P753「入試関係説明会等参加状況」 資料6-1-②-(2)-14、P754「H29入学一ヶ月アンケート集計表」 資料6-1-②-(2)-15、P755「H29オープンキャンパスアンケート結果集計」 資料6-1-②-(2)-16、P760「H29PROG 結果報告」</p>
<p>(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立てているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>改善に役立てている <input type="checkbox"/>改善に役立てていない</p>	<p>◆検証の結果に基づいた具体的な改善の実施状況を踏まえて、検証の結果を改善に役立てている状況について、資料を基に記述する。 資料6-1-②-(3)-1、P763「入学者選抜に係る変更点」 資料6-1-②-(3)-1～13、平成18～23年度入試選考要領（訪問調査時資料） これまで、資料のとおり配点の変更や、特別活動点の導入、</p>

	<p>推薦選抜・学力選抜の比率の変更などを行ってきた。長年の入学者の成績等の分析により、中学校の調査書の成績が良い者は、入学後の学業成績も良いという傾向があったため、推薦選抜での合格者数を徐々に増やしてきた。文部科学省は、推薦選抜での合格者数について制限を設けているが、本校では推薦選抜での比率を高めたいとの希望をもち、制限の範囲内で可能な最大の比率とすることに努めてきた。</p> <p>中学校の調査書と入学後の学業成績の相関については、5段階絶対評価が定着してきた現在では、相関の程度が低くなってきているが、県内の公立高校の入試制度の変更に伴い、その競合から、推薦選抜合格者数を減らしていない。</p>
<p>観点6-1-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ (2)の体制の整備は、必ずしもこの取組に特化した組織を整備することを求めているのではなく、既存の委員会で対応することとしている場合には、当該委員会に関する規定の所掌において定員と実入学者数との関係の把握と必要な改善のための取組が明示されていることを分析すること。</p> <p>○ (3)の入学定員に対する入学者数は、大学、大学院、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準に照らして、分析すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第4条の2、第5条第2項 大学、大学院、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準(平成15年3月31日 文部科学省告示第45号)</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生定員を学科ごとに1学級当たり40人を標準として、学則で定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇学則の該当箇所</p> <p>資料6-1-③-(1)-1、P764「学則の学生定員を定めている箇所」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/18-17-1.pdf</p>
<p>(2) 学科ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇体制の整備に係る規程等がわかる資料</p> <p>資料6-1-②-(1)-2、P750「教務委員会規程」(再掲)</p> <p>資料6-1-②-(1)-4、P752「運営会議規則」(再掲)</p>
<p>(3) 過去5年間の学科ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。</p>	<p>◇【別添】平均入学定員充足率計算表</p>

<p><input checked="" type="checkbox"/> 適正である</p> <p><input type="checkbox"/> 超過又は不足がある</p>	
<p>(4) 過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない</p>	<p>◆大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合には、該当する学科について、実入学者数の改善に資する取組や教育環境等の改善により教育等に支障が生じないように取った対応等、実際に行った事例がわかる資料を基に記述する。</p>
<p>6-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	

基準6

<p>優れた点</p>
<p>入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能している。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっている。</p>
<p>改善を要する点</p>
<p>特になし</p>

基準7 準学士課程の学習・教育の成果

<p>評価の視点</p> <p>7-1 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。</p>	
<p>観点7-1-① 成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 学生の成績（卒業時のGPA値等。）や原級留置の状況、単位修得率（登録授業単位数に対する修得単位数の率。）等、成果を総合的に分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇体制の整備状況がわかる資料</p> <p>資料7-1-①-(1)-1、P765「成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制」</p> <p>◇成績評価・卒業認定等に関するデータ・資料</p> <p>資料7-1-①-(2)-1、P766「5年機械工学科卒業認定会議成績資料」</p>
<p>(2) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価しているか。</p> <p>■把握・評価している</p> <p>□把握・評価していない</p>	<p>資料7-1-①-(2)-2、P767「5年電気情報工学科卒業認定会議成績資料」</p> <p>資料7-1-①-(2)-3、P769「5年都市システム工学科卒業認定会議成績資料」</p>
<p>(3) (2)の結果から学習・教育の成果が認められるか。</p> <p>■認められる</p> <p>□認められない</p>	<p>資料7-1-①-(2)-4、P770「5年建築学科卒業認定会議成績資料」</p> <p>◇把握・評価の実施状況がわかる資料</p> <p>資料7-1-①-(2)-5、P771「5年機械工学科卒業研究評価内訳表」</p> <p>資料7-1-①-(2)-6、P772「5年電気情報工学科卒業研究評価内訳表」</p> <p>資料7-1-①-(2)-7、P773「5年都市システム工学科卒業研究評価内訳表」</p> <p>資料7-1-①-(2)-8、P774「5年建築学科卒業研究評価内訳表」</p> <p>資料7-1-①-(2)-9、P775「学科別第5学年課程修了卒業判定合格・不合格者数(平成25年度～平成29年度)」</p> <p>◆左記(2)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育の成果が認められることについて、資料を基に記述する。</p> <p>卒業認定資料および評価内訳表より十分な学習・教育の成果が認められる。</p>

	<p>平成 25 年～29 年度第 5 学年課程修了卒業判定実績表から、過去 5 年間、卒業判定の不合格者数が 851 名中 17 名と少なく、卒業認定の状況は良好である。</p>
<p>観点 7-1-② 達成状況に関する学生・卒業生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ (1)の体制の整備が、観点 7-1-①と同じ体制で実施されている場合には、観点 7-1-①と同じ資料となる。</p> <p>○ (2)(3)(4)は、観点 1-1-③で分析している種々の評価結果の一部と同一のものであるため、内容の整合性に留意して分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇体制の整備状況がわかる資料</p> <p>資料 7-1-②-(1)-1、P776「卒業生・進路先等からの意見聴取の結果の把握・評価の体制」</p> <p>◇意見聴取の結果に関するデータ・資料</p> <p>資料 7-1-②-(2)-1、P777「卒業生(卒業時)意見聴取の結果」</p>
<p>(2) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、卒業時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>資料 7-1-②-(3)-1、P782「卒業生(卒業 5 年後以降)意見聴取の結果」</p> <p>資料 7-1-②-(4)-1、P784「進路先関係者の意見聴取の結果」</p> <p>◇把握・評価の実施状況がわかる資料</p>
<p>(3) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、卒業生（卒業後 5 年程度経った者）に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>資料 7-1-②-(2)-2、P779「卒業生(卒業時)意見聴取結果からの学習・教育の成果を把握・評価する資料」</p> <p>資料 7-1-②-(3)-2、P783「卒業生(卒業 5 年後以降)意見聴取の評価結果資料」</p> <p>資料 7-1-②-(4)-2、P785「進路先関係者の意見聴取の評価結果資料」</p>
<p>(4) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>◆左記(2)～(4)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育の成果が認められることについて、資料を基に記述する。</p> <p>資料の分析結果から、概ね卒業の認定に関する方針に沿った学習・教育の成果が認められると判断できる。ディプロマポリシー(1)専門分野の基礎知識、(2)問題解決力、(3)主体的・能動的行動力の教育の成果については、卒業生、進路先ともに評価が高く、特に進路先については 80 パーセント以上が成果として評価している。一方で(4)多様化する社会を俯瞰的に把握し、創造的に思考できる能力に</p>
<p>(5) (2)～(4)の評価結果から学習・教育の成果が認められるか。</p> <p>■認められる</p> <p>□認められない</p>	

	については卒業生の評価が他と比較して低い結果となっている。
観点7-1-③ 就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	
【留意点】なし。	
関係法令	(法)第122条 (施)第178条
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。</p> <p>■認められる</p> <p>□認められない</p>	<p>◇【別添】卒業生進路実績表</p> <p>◆就職率・進学率や就職先等から、養成しようとする人材像にかなった成果が得られているかどうかについて、資料を基に記述する。</p> <p>平成25年～29年度の進路実績表、本科、専攻科とも十分な学習・教育の成果が認められる。</p> <p>卒業生進路実績表より、過去5年間の就職については、ほぼ100%、進学については平均95.7%である。卒業の認定に関する方針に沿った学習・教育の成果として、十分な結果が得られている。</p>
<p>(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。</p> <p>■なっている</p> <p>□なっていない</p>	
<p>7-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
該当なし	

基準7

<p>優れた点</p> <p>過去5年間、卒業判定の不合格者数が851名中17名と少なく、卒業認定の状況は良好である。過去5年間の、就職に進学については良好な結果が得られている。</p>
<p>改善を要する点</p> <p>卒業の認定に関する方針に沿った学習・教育の成果として「多様化する社会を俯瞰的に把握し、創造的に思考できる能力」について充実させる必要がある。</p>

基準 8 専攻科課程の教育活動の状況

<p>評価の視点</p> <p>8-1 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。</p>	
<p>観点 8-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点 1-2-⑤の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。</p> <p>○ 本評価書 I (1) 4. において、特例適用専攻科又は J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p> <p>（根拠理由欄）</p> <p>満たしていると判断する場合であって、特例適用専攻科又は J A B E E 認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。</p> <p>なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の項目について分析すること。</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。</p> <p>■配置している</p> <p>□配置していない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料</p> <p>資料 8-1-①-(1)-1、P786「専攻科の三つのポリシー」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/advanced/policy</p> <p>資料 8-1-①-(1)-2、P787「専攻科の教育課程表（平成 30 年度）」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/30_kyouikukateihyouAd.pdf</p>
<p>観点 8-1-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 本評価書 I (1) 4. において、特例適用専攻科又は J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	

<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>(根拠理由欄)</p> <p>満たしていると判断する場合であって、特例適用専攻科又は J A B E E 認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できるかと判断した根拠理由を記述すること。</p> <p>なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の項目について分析すること。</p>	
自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 考慮している</p> <p><input type="checkbox"/> 考慮していない</p>	<p>◇連携及び発展等の考慮状況がわかる資料</p> <p>資料 8-1-②-(1)-1、P789「専門細目分野別系統図 (機械工学科 平成 30 年度)」</p> <p>資料 8-1-②-(1)-2、P790「専門細目分野別系統図 (電気情報工学科電気電子工学コース 平成 30 年度)」</p> <p>資料 8-1-②-(1)-3、P791「専門細目分野別系統図 (電気情報工学科情報工学コース 平成 30 年度)」</p> <p>資料 8-1-②-(1)-4、P792「専門細目分野別系統図 (都市システム工学科 平成 30 年度)」</p> <p>資料 8-1-②-(1)-5、P793「専門細目分野別系統図 (建築学科 平成 30 年度)」</p>
<p>観点 8-1-③ 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 本評価書 I (1) 4. において、J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>(根拠理由欄)</p> <p>満たしていると判断する場合であって、J A B E E 認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できるかと判断した根拠理由を記述すること。</p> <p>なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について分析すること。</p>	
自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) に基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 採用されている</p> <p><input type="checkbox"/> 採用されていない</p>	<p>◇授業形態の開講状況 (バランスを含む。) がわかる資料</p> <p>資料 8-1-①-(1)-1、P786「専攻科の三つのポリシー」(再掲)</p> <p>資料 8-1-③-(1)-1、P794「一般教養科目、専門共通科目および専門展開科目別の授業の講義部分と実</p>

	<p>験・実習部分の割合」</p> <p>資料 8-1-③-(1)-2、P795「一般教養科目（経営科学・環境科学・異文化理解）のシラバス」 http://www.akashi.ac.jp/advanced/ad_curriculum#30-1me</p> <p>資料 8-1-③-(1)-3、P802「専門共通科目（創発ゼミナール・専攻科特別講義・工業材料）のシラバス」 http://www.akashi.ac.jp/advanced/ad_curriculum#30-1me</p> <p>資料 8-1-③-(1)-4、P808「ME 専門展開科目（システム制御工学・材料力学特論・トライポロジー）のシラバス」 http://www.akashi.ac.jp/advanced/ad_curriculum#30-1me</p> <p>資料 8-1-③-(1)-5、P814「AC 専門展開科目（構造システム I・防災システム I・建築構造設計）のシラバス」 http://www.akashi.ac.jp/advanced/ad_curriculum#30-1ac</p> <p>◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。</p> <p>資料 8-1-③-(1)-1、P794「一般教養科目、専門共通科目および専門展開科目別の授業の講義部分と実験・実習部分の割合」（再掲）のとおり、2年次の共通科目を除いて、実験、実習部分は授業時間全体の20%以上を占めている。講義内容の理解を深めさせるため、実験、プログラミング演習、シミュレーションツールを使用した実習とそれらの成果発表、フィールドワークなどが、講義科目の中にも取り入れられており、適切なものとなっている（資料 8-1-③-(1)-2～5、P795～819（再掲））。</p>
<p>(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■教材の工夫 ■少人数教育 ■対話・討論型授業 ■フィールド型授業 ■情報機器の活用 ■基礎学力不足の学生に対する配慮 ■一般科目と専門科目との連携 	<p>◇チェックした項目の実施状況がわかる資料</p> <p>資料 8-1-③-(1)-2、P795「一般教養科目（経営科学・環境科学・異文化理解）のシラバス」（再掲） http://www.akashi.ac.jp/advanced/ad_curriculum#30-1me</p> <p>資料 8-1-③-(1)-3、P802「専門共通科目（創発ゼミナール・専攻科特別講義・工業材料）のシラバス」（再掲） http://www.akashi.ac.jp/advanced/ad_curriculum#30-1me</p>

<p>□その他</p>	<p>資料 8-1-③-(1)-4、P808「ME 専門展開科目（システム制御工学・材料力学特論・トライポロジー）のシラバス」（再掲） http://www.akashi.ac.jp/advanced/ad_curriculum#30-1me</p> <p>資料 8-1-③-(1)-5、P814「AC 専門展開科目（構造システム I・防災システム I・建築構造設計）のシラバス」（再掲） http://www.akashi.ac.jp/advanced/ad_curriculum#30-1ac</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>観点 8-1-④ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 教養教育の実施状況や学生の研究指導が、学校教育法上の目的及び学校の教育の目的を達成する上で適切なものであるかどうかを分析すること。</p> <p>○ 本評価書 I (1) 4. において、特例適用専攻科について記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法) 第 119 条第 2 項</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p> <p>（根拠理由欄）</p> <p>満たしていると判断する場合であって、特例適用専攻科の認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。</p> <p>なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の項目について分析すること。</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生への教養教育や研究指導を、適切に行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>◇教養教育や研究指導の実施状況がわかる資料</p> <p>資料 8-1-①-(1)-2、P787「専攻科の教育課程表（平成 30 年度）」（再掲） http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/30kyouikukateihyouAd.pdf</p> <p>資料 8-1-③-(1)-2、P795「一般教養科目（経営科学・環境科学・異文化理解）のシラバス」（再掲） http://www.akashi.ac.jp/advanced/ad_curriculum#30-1me</p>

	<p>資料 8-1-④-(1)-1、P820「工学基礎研究・専攻科特別研究のシラバス」 http://www.akashi.ac.jp/advanced/ad_curriculum#30-1me</p> <p>資料 8-1-④-(1)-2、P826「専攻科に関する特別の事項」 http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/18-11.pdf</p> <p>資料 8-1-④-(1)-3、P830「工学基礎研究及び専攻科特別研究の学習時間」</p> <p>資料 8-1-④-(1)-4、P832「専攻科生の学会発表等の状況」</p>
<p>観点 8-1-⑤ 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 本評価書 I (1) 4. において、JABEE 認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する <input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p> <p>（根拠理由欄）</p> <p>満たしていると判断する場合であって、JABEE 認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。</p> <p>なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について分析すること。</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。</p> <p>■策定している <input type="checkbox"/>策定していない</p>	<p>◇成績評価や単位認定に関する規定等の該当箇所</p> <p>資料 8-1-⑤-(1)-1、P836「専攻科履修規程」 http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/18-17-4.pdf</p>
<p>(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。</p> <p>■行っている <input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわかる資料</p> <p>資料 8-1-⑤-(2)-1、P837「授業点検チェックシート」 （各授業科目の単位認定資料・答案・根拠資料等については訪問時に提示する）</p>
<p>(3) 1 単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて</p>	<p>◇学校として把握していることがわかる資料</p>

<p>45 時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>把握している <input type="checkbox"/>把握していない</p>	<p>資料 8-1-⑤-(2)-1、P837「授業点検チェックシート」(再掲) 授業科目の単位認定資料・答案・根拠資料等については訪問時に提示する)</p>
<p>(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>周知している <input type="checkbox"/>周知していない</p>	<p>◇周知を図る取組の内容(学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。)がわかる資料 資料 8-1-⑤-(1)-1、P836「専攻科履修規程」(再掲) http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/18-17-4.pdf 資料 8-1-⑤-(4)-1、P840「技術者倫理シラバス」 http://www.akashi.ac.jp/data/syllabus/2018/20181606010120.pdf 資料 8-1-④-(1)-2、P826「専攻科に関する特別の事項」(再掲) http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/18-11.pdf</p>
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>把握している <input type="checkbox"/>把握していない</p>	<p>◇認知状況がわかる資料 資料 8-1-⑤-(5)-1、P842「成績評価や単位認定に関する基準について学生の認知状況がわかる資料」</p>
<p>(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない</p>	<p>◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料 資料 8-1-⑤-(1)-1、P836「専攻科履修規程」(再掲) http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/18-17-4.pdf</p>
<p>(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない</p>	<p>◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規定等がわかる資料 資料 5-3-①-(7)-1、P714「成績評価結果に関する学生からの意見申立ての機会が明示されている資料」(再掲)</p>
<p>(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>成績評価の妥当性の事後チェック <input checked="" type="checkbox"/>答案の返却 <input checked="" type="checkbox"/>模範解答や採点基準の提示 <input type="checkbox"/>GPAの進級判定への利用 <input type="checkbox"/>成績分布のガイドラインの設定</p>	<p>◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に記述する。 成績評価や単位認定に関しては、客観的かつ厳格な判断を担保し、かつ学校としての一貫性保持のため、認定会議において教員全員で審議を行ったうえで校長が決定している。また、各科目における成績評価の厳格性確保のため、</p>

<p><input type="checkbox"/>複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>試験問題のレベルが適切であることのチェック</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>評価内訳表の提出と定期試験の答案、演習課題・レポート等の根拠資料の保管が義務づけられており、いずれも教員相互に照合・点検することが可能となっている。定期試験の答案や演習課題、レポート課題等については原則として学生に返却し、学生が評価を確認したうえで、評価理由について担当教員に説明を求めることができるようにしている。また、教員は学期終了後の授業点検において、返却状況を申し、FD委員会が資料を点検している。こうした成績評価・単位認定は、入学時に配布される「学生生活のてびき」に記載されている資料8-1-⑤-(1)-1、P836「専攻科履修規程」(再掲)や資料8-1-④-(1)-2、P826「専攻科に関する特別の事項」(再掲)、本校ホームページで公開されている各科目のシラバス等によって学生に周知されている。また、結果については定期試験の答案や演習課題、レポート課題等を原則として学生に返却し、学生が評価を確認したうえで、評価理由について担当教員に説明を求めることができるようにしている。</p> <p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。</p>
<p>観点8-1-⑥ 修了認定基準が、修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p> <p>○ 本評価書I(1)4.において、JABEE認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第119条第2項</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p> <p>(根拠理由欄)</p> <p>満たしていると判断する場合であって、JABEE認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。</p> <p>なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について分析すること。</p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学則等に、修業年限を1年以上と定めているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>定めている</p> <p><input type="checkbox"/>定めていない</p>	<p>◇学則等の該当箇所がわかる資料</p> <p>資料8-1-⑥-(1)-1、P843「学則」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/18-17-1.pdf</p>

<p>(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、修了認定基準を定めているか。</p> <p>■定めている □定めていない</p>	<p>◇定めている該当規程や修了認定基準</p> <p>資料 8-1-⑤-(1)-1、P836「専攻科履修規程」（再掲）</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/18-17-4.pdf</p>
<p>(3) 修了認定基準に基づき、修了認定しているか。</p> <p>■認定している □認定していない</p>	<p>◇関係する委員会等の会議資料</p> <p>資料 8-1-⑥-(3)-1、P844「平成 29 年度第 11 回 教員会議事要録」</p> <p>資料 8-1-⑥-(3)-2、P846「平成 29 年度専攻科成績一覧表の様式」</p>
<p>(4) 修了認定基準を学生に周知しているか。</p> <p>■周知している □周知していない</p>	<p>◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料</p> <p>資料 8-1-⑤-(1)-1、P836「専攻科履修規程」（再掲）</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/18-17-4.pdf</p> <p>資料 8-1-④-(1)-2、P826「専攻科に関する特別の事項」（再掲）</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/18-11.pdf</p>
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p>■把握している □把握していない</p>	<p>◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料</p> <p>資料 8-1-⑤-(5)-1、P842「成績評価や単位認定に関する基準について学生の認知状況がわかる資料」（再掲）</p>
<p>8-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p> <p>特に専攻科課程の教育課程及び教育方法に関して、準学士課程の 5-1 及び 5-2 の内容を参考に、特記すべき個性や特色等があれば、自由に記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点</p> <p>8-2 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。</p>	
<p>観点 8-2-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 合否判定基準については、提示できるものがあれば、提示すること。自己評価書での提示が不可能な場合は、訪問調査時に提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p>	

<input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等）となっているか。 <input checked="" type="checkbox"/> なっている <input type="checkbox"/> なっていない	◇入学者選抜要項、面接要領、合否判定基準、入学試験実施状況等がわかる資料 資料 8-2-①-(1)-1、P 848「平成 30 年度専攻科学生募集要項」 資料 8-2-①-(1)-2、平成 30 年度専攻科推薦選抜面接要領（訪問調査時資料） 資料 8-2-①-(1)-3、平成 30 年度専攻科入学者選考要領（推薦選抜）（訪問調査時資料） 資料 8-2-①-(1)-4、平成 30 年度専攻科入学者選考要領（学力選抜）（訪問調査時資料）
観点 8-2-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。	
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇改善のための体制に関する資料 資料 8-2-②-(1)-1、P 854「入学者選抜委員会規則」 資料 8-2-②-(1)-2、P 855「アクティブラーニングセンター規則」 資料 8-2-②-(1)-3、P 856「FD 部門要項」
(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	◇検証を行った結果の資料 資料 8-2-②-(2)-1、平成 28 年度専攻科入学者選抜委員会（専攻科学力）議事録（訪問調査時資料） 資料 8-2-②-(2)-2、平成 29 年度専攻科入学者選抜委員会（専攻科学力）議事録（訪問調査時資料） 資料 8-2-②-(2)-3、平成 30 年度専攻科入学者選抜委員会（専攻科学力）議事録（訪問調査時資料）
(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善に役立っている <input type="checkbox"/> 改善に役立っていない	◆検証の結果に基づいた具体的な改善の実施状況を踏まえて、検証の結果を改善に役立っている状況について、資料を基に記述する。 資料 8-2-②-(3)-1、P 857「専攻科学生募集要項出願資格」 学生の受け入れについては、入学者選抜時に面接、調査書

	<p>および学力試験の結果に基づいて、専攻科入学者選抜委員会においてアドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れを決定している。選抜基準についても、毎年専攻科入学者選抜委員会で検討しており、入学者選抜の改善に役立っている。その結果、推薦選抜における出願資格としてのTOEICスコアを平成28年度までの400点から平成29年度には450点、平成30年度からは500点と変更している。また、入学者に対しては、アクティブラーニングセンターのFD部門が学習目標の周知度及び重要性に関する意識調査を行っており、入学者がアドミッション・ポリシーに沿った学生であることの検証を行っている。</p>
<p>観点8-2-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ (2)の体制の整備は、必ずしもこの取組のためだけの組織を整備することを求めているのではなく、既存の委員会で対応することとなっている場合には、当該委員会に関する規定の所掌において定員と実入学者数との関係の把握と必要な改善のための取組が明示されていることを分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生定員を専攻ごとに学則等で定めているか。</p> <p>■定めている □定めていない</p>	<p>◇学則等の該当箇所</p> <p>資料8-2-③-(1)-1、P860「学則」</p> <p>http://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2018/04/18-17-1.pdf</p>
<p>(2) 専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇体制の整備に係る規程等がわかる資料</p> <p>資料8-2-②-(1)-1、P854「入学者選抜委員会規則」（再掲）</p>
<p>(3) 過去5年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。</p> <p>□適正である ■超過又は不足がある</p>	<p>◇【別添】平均入学定員充足率計算表</p>
<p>(4) 過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。</p> <p>■行っている □行っていない</p>	<p>◆大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合には、該当する専攻について、実入学者数の改善に資する取組や教育環境等の改善により教育等に支障が生じないように取った対応等、実際に行った事例がわかる資料を基に記述する。</p>

<p><input type="checkbox"/>過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない</p>	<p>平成26年度までは、入学者は定員の2倍を超えていたが、講義室及び教育設備上の制限及び学位の特例申請上の適正学生数の観点から、平成28年度より、入学者選抜委員会において入学者を定員の2倍以内とすることが決定された（訪問調査時資料：資料8-2-②-(2)-1、平成28年度専攻科入学者選抜委員会（専攻科学力）議事録）。さらに平成30年度入試からは、学力入試において合格者決定のための基準点（合格基準）を210点から240点（350点満点）に変更した。これにより、平成30年度の入学者は19名（定員16名）となり、大幅な定員超過については改善されている。（訪問調査時資料：資料8-2-②-(2)-2、平成29年度専攻科入学者選抜委員会（専攻科学力）議事録）</p>
<p>8-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点</p>	
<p>8-3 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。</p>	
<p>観点8-3-① 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】 ○ 学生の成績（修了時のGPA値等。）や修業年限修了率、単位修得率（登録授業単位数に対する修得単位数の率。）等、成果を総合的に分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p><input type="checkbox"/>整備していない</p>	<p>◇体制の整備状況がわかる資料</p> <p>資料8-3-①-(1)-1、P861「成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制」</p> <p>◇成績評価・修了認定等に関するデータ・資料</p>
<p>(2) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価しているか。</p> <p>■把握・評価している</p> <p><input type="checkbox"/>把握・評価していない</p>	<p>資料8-3-①-(2)-1、P862「平成29年度第11回教員会議事録」</p> <p>資料8-1-⑥-(3)-2、P846「平成29年度専攻科成績一覧表の様式」（再掲）</p> <p>（修了時の成績一覧については訪問調査時に提示する。）</p>
<p>(3) (2)の結果から学習・教育・研究の成果が認められる</p>	<p>◇把握・評価の実施状況がわかる資料</p>

<p>か。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>認められる</p> <p><input type="checkbox"/>認められない</p>	<p>資料 8-3-①-(2)-2、P863「修業年限修了率」</p> <p>資料 8-3-①-(2)-3、P864「単位取得率」</p> <p>◆左記(2)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることについて、資料を基に記述する。</p> <p>上記資料に示すように、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価が適正に行われ、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価する体制が整備されている。修業年限修了率や単位取得率も良好（過去5年間で95%以上）であり、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力を適正に把握・評価している。</p>
<p>観点 8-3-② 達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ (1)の体制の整備が、観点 8-3-①と同じ体制で実施されている場合には観点 8-3-①と同じ資料となる。</p> <p>○ (2)(3)(4)は、観点 1-1-③で分析している種々の評価結果の一部と同一のものであるため、内容の整合性に留意して分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>整備している</p> <p><input type="checkbox"/>整備していない</p>	<p>◇体制の整備状況がわかる資料</p> <p>資料 8-3-②-(1)-1、P865「学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制」</p> <p>資料 8-2-②-(1)-3、P856「FD 部門要項」</p>
<p>(2) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>行っている</p> <p><input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◇意見聴取の結果に関するデータ・資料</p> <p>資料 8-3-②-(2)-1、P866「学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力に関する調査結果」</p> <p>◇把握・評価の実施状況がわかる資料</p>
<p>(3) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>行っている</p> <p><input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>資料 8-3-②-(3)-1、P867「学習・教育・研究の成果の把握・評価の実施状況がわかる資料」</p> <p>◆左記(2)～(4)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることについて、資料を基に記述する。</p>
<p>(4) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教</p>	<p>修了生及び進路先関係者等に対する意見聴取の結果は、資</p>

<p>育・研究の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>料 8-3-②-(2)-1、P 866「学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力に関する調査結果」及び資料 8-3-②-(3)-1、P 867「学習・教育・研究の成果の把握・評価の実施状況がわかる資料」(再掲)に示すとおり、専攻科修了生が修了時に身に付けた学力、資質・能力はいずれも高く評価されており、学習・教育・研究の成果が認められる。</p>
<p>(5) (2)～(4)の評価結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 認められる</p> <p><input type="checkbox"/> 認められない</p>	
<p>観点 8-3-③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校として把握している最近 5 年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 認められる</p> <p><input type="checkbox"/> 認められない</p>	<p>◇【別添】修了者進路実績表</p> <p>◆就職率・進学率や就職先等から、養成しようとする人材像にかなった成果が得られているかどうかについて、資料を基に記述する。</p>
<p>(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> なっている</p> <p><input type="checkbox"/> なっていない</p>	<p>別添資料に示すとおり、修了生は各専門分野の優良企業に就職し、東大・京大・大阪大等の大学院に進学しており、養成しようとする人材像にかなった成果が得られている。</p>
<p>観点 8-3-④ 修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 学位の取得を目的としていない専攻科については、「□学位の取得を目的としていないので、該当しない」の欄をチェックすること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p> <p><input type="checkbox"/> 学位の取得を目的としていないので、該当しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 過去 5 年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 認められる</p> <p><input type="checkbox"/> 認められない</p>	<p>◇学位取得状況がわかる資料</p> <p>資料 8-3-④-(1)-1、P 871「学位取得率」</p>
<p>8-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や</p>	

特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

該当なし

基準 8

優れた点

専攻科課程のカリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われている。成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われている。また、修了生の学力、資質・能力は、就職・進学先等の進路先関係者等に高く評価されており、学習・教育・研究の成果が認められる。

改善を要する点

入学者の選抜に関しては、専攻科課程としてのアドミッション・ポリシーに沿って適切に運用されているが、平成 26～29 年度の入学者数は定員の 2 倍を超える場合もあり、改善が必要であった。平成 30 年度は合格基準の改定により改善されたが、今後も継続して適正な入学者数とすることが望まれる。